



シンプルがいいね、技術も。

近年、“技術”はますます高度で複雑になってきました。専門知識を持った人や経験を積んだ人でなくては扱えないような機械もふえています。でも本来機械は、誰もが気軽に使えるものであるべきでしょう。これからの技術には単純明快なわかりやすさが必要なのです。いま日立はインターフェイスという言葉のもとに、人間と技術とのよりよい関係、誰もがかんたんに使いこなせる技術の実現をめざして研究・開発をすすめています。



技術との自由な対話

Interface

株式會社 日立製作所　宣伝部 〒101 東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地　TEL東京(03)258-1111(大代)

(財)日本ハンドボール協会
昭和62・63年度役員

(財)日本ハンドボール協会の昭和62・63年度の新役員が
以下のように選任されましたのでお知らせいたします。

会　長	斎藤英四郎	
副会長	荒川　清美	
〃	渡辺　和美	
〃	盛田　正明	
専務理事	安藤　純光	
理　事	大野　金一	(国際担当)
〃	高田日呂美	(総務担当)
〃	滝口　三郎	(財務担当)
〃	川上　整司	(企画・広報担当)
〃	伊藤　和夫	(普及・指導担当)
〃	北川　勇喜	(強化担当)
〃	阿部徳之助	(技術担当)
〃	大塚　文雄	(審判担当)
〃	西村　亮治	(日本リーグ担当)
〃	清水　正	(東ブロック)
〃	望月　三郎	(中ブロック)
〃	藤田　八郎	(西ブロック)
〃	山田　稔	(社会人)
〃	中沢　重夫	(学連)
〃	佐野　和夫	(高体連)
参　事	中村　崇	(北海道)
〃	森　恭一	(東　北)
〃	竹野　秀輝	(北信越)
〃	中根　武彦	(東　海)
〃	槙　敏夫	(中　国)
〃	河本　武夫	(四　国)
〃	柳井　文治	(教職員連)
〃	富永　劭	(自衛隊連)
監　事	松本　重夫	
〃	都野　雄治	

MIZUNO
THE WORLD OF SPORTS



パワー効率重視。コートのマシン〈ランバード〉

室内コート専用のマルチファンクション ソール。

前後左右、あらゆる方向へのトラクション性にすぐれたヘリンボーン意匠をベースに、かかとには着地時の衝撃を吸収、分散するコンケーブ意匠を配置。また、ソール前半にはパワーロスを防ぐサイドモーション サポートリブ、回転運動の軸となるピボットリングをはじめ、屈曲性を高めるフレキシブルゾーンなどをレイアウト。多様なプレーに対応するソールパターンが生まれました。

〈ランバード〉ハンドボール シューズ
《ウイング ショット》¥12,000

- 甲/牛革 ● 補強材/人工皮革 ● 底/ラバー ハーフ ジェル ソール
- カラー/16KH-1527 ホワイト・レッドにメタリックネイビー ライン
  /16KH-1562 ホワイトにレッド ライン



第10回全国高校選抜大会

記念大会で 男女60チームが参加

選手宣誓をする岡崎城西・野田主将

第10回全国高校選抜大会は、3月24日から28日まで愛知県体育館、露橋スポーツセンターで開催された。今大会は記念大会ということで、男女とも各30校が参加して行なわれ、栄冠めざして激しい闘いが展開された。

男子は、昨年の優勝校で、この大会に過去3回の優勝を飾っている久留米工大附属高が強さを見せ、1回戦から豊富な得点力から安定した戦いを見せ、2年連続4回目の優勝を飾った。

準優勝を飾ったのは、一昨年の優勝校・横浜商工で、地元の岡崎城西、名門・明星などを降して決勝に進出、2年ぶりの栄冠をめざしたが、後半に力尽きてしまい惜しくも準優勝にとどまった。ほかに沖縄・興南高の戦いぶりが目を引いたが、九州同士の対決となった準決勝で久留米工大附属の前に惜敗した。

女子は、今大会大混戦となり、その接戦を勝ち抜いた昭和学院（千葉）と本庄（宮崎）が決勝で対決した。どちらが勝っても初優勝という新鮮な対戦である。昭和学院は、3回戦で熊本女商に、また準決勝で川口青陵に延長戦で勝つという苦しい戦いを勝ち抜いて来た勢いで、決勝戦も制し、見事に初優勝を飾った。本庄も初出場ながら僅差の試合を勝ち抜き見事決勝進出は立派だった。

また、今大会で目立ったのは関東勢の活躍で、優勝の昭和学院はもちろん、佼成学園女（東京）、川口青陵（埼玉）と、実にベスト4の中に3校を関東勢が占めた。

滋養強壮剤
キヨーレオピン®
薬用人参・牛黄・大蒜製剤
レオピン® ファイブ
効能・効果
○滋養強壮 ○虚弱体質 ○肉体疲労・病後の体力低下・胃腸障害・栄養障害・発熱性消耗性疾患・妊娠授乳期などの場合の栄養補給

湧永製薬株式会社
〒553 大阪市福島区福島3丁目1番39号
〒101 東京都千代田区三崎町1丁目3番12号

男子 久留米工大附が二連覇

1回戦

桜台 31（18—7, 13—13）20 **新居浜工**
（愛知）　　　　　　　　　（愛媛）

〔戦評〕桜台のスローオフでゲームが始まった。新居浜工は、桜台の堅いディフェンスに攻め手がなく、ミスが続いた。一方桜台は、このミスからの速攻、カットイン、サイドなどで着実に得点をあげ、点差を広げて前半を終了した。後半に入り、新居浜工は神野、日野のロングシュートなどで得点を重ねたが、総合的力に勝る桜台が勝利を飾った。（浅井惣）

	〔新居浜〕	得	〔桜台〕	得
GK	滝本	0	岩佐	0
GK	川村	1	阪野	0
FP	日野	2	山田	5
FP	永井	0	内田	10
FP	武方	4	板谷	0
FP	嵐	3	鎌田	4
FP	黒川	0	榎本	4
FP	石井	1	落合	0
FP	鈴木	5	草野	0
FP	新名	0	山上	0
FP	神野	4	鳥本	7
FP	丸川	0	鈴村	1
PT	(1)	20	(3)	31

（審・杉本 工藤）

三島 27（14—5, 13—9）14 **浦和実**
（大阪）　　　　　　　　（埼玉）

〔戦評〕浦和実のスローオフで開始。前半立ち上がり、三島はロングゲ、ポストの展開で得点を重ねる。一方浦和実は、カットインで攻撃するが、なかなか得点することができず、5—14と三島のリードで前半終了。

後半に入り、浦和実はセンターからカットン、さらにポストへの展開で追い上げる。しかし、三島は高さ、スピードに乗ったプレーで浦和実を引き離し、27—14で試合終了。（菅原弘勝）

	〔浦和実〕	得	〔三島〕	得
GK	越智	0	福島	0
GK	浅見	0	山脇	0
FP	和記	6	山田	5
FP	池沢	2	白井	3
FP	幸田	0	有田	2
FP	谷口	3	伊勢坊	5
FP	今野	0	小坂	3
FP	矢田部	1	鳥平	9
FP	阿野	2	柳瀬	0
FP	高野	0	戎脇	0
FP	羽田	0	浅野	0
FP	信田	0	山本	0
PT	(4)	14	(1)	27

（審・細沢 杉山）

興南 28（14—7, 14—15）22 **氷見**
（沖縄）　　　　　　　　（富山）

〔戦評〕立ち上がり5分まで両チームとも粘りのある守りを見せて1—1と互角であったが、その後興南が嶺井の速攻を足がかりに着実に得点を積み重ね、14—7で前半を終了。

後半、氷見は森谷を中心とした長短打のコンビプレーで再三興南ゴールを攻めるが、GK我謝の好守に阻まれ、追いつくことができなかった。

両チームともに四つずつの退場を出し、お互いに攻守のペースが保てず、結局前半7点をリードした興南が、名門、氷見を破り1回戦を突破した。（玉腰憲樹）

	〔氷見〕	得	〔興南〕	得
GK	飯久保	0	我謝	0
GK	浜元	0		
FP	山田	2	宮城	1
FP	酒井	0	金城	2
FP	岩上	6	渡慶次	0
FP	森谷	9	具志堅	1
FP	木瀬	0	吉浜	3
FP	田中	1	上原	2
FP	新井	4	嶺井	11
FP	柿谷	0	又吉	2
FP	飯山	0	比嘉	6
FP	五十里	0		
PT	(0)	22	(2)	28

（審・島田 後藤）

函館有斗 20（8—11, 12—7）18 **那賀**
（北海道）

〔戦評〕開始1分30秒、那賀・土井が先手をとった。その後もPT、速攻で着実に加点、函館有斗の厚い守りをエース宮城の巧みなフェイントを中心に果敢に攻撃。一方、なかなか歯車のかみ合わなかった、有斗も、前半残りの6分、GKのはじいたボールを高橋が確実に決めてから寺嶋のロング、伊藤、建部らの速攻で4点を連取、波に乗って前半を終了した。

後半に入っても、右へ左へ揺さぶる攻撃で那賀の好守、井上の死角を突く。堅い守りに阻まれて中央からの攻め手のない那賀は、5分後同点に追いつかれる。その後一進一退、互いに譲らず、白熱した展開となったが、あせった那賀のミスから有斗、伊藤が速攻で、フリースローからの高橋のシュートで試合を決めた。（伊藤諭志）

	〔那賀〕	得	〔有斗〕	得
GK	井上	0	佐藤	0
GK	中川	0	松	0
FP	中芝	5	建部	4
FP	宮城	8	久保	4
FP	佐々木	0	高橋	2
FP	小嶋	1	宇美	0
FP	伊藤	0	伊藤	5
FP	城山	0	古西	0
FP	笠中	3	駒野	1
FP	金田	0	寺嶋	4
FP	土井	1	岩崎	0
FP	中井	0	紅谷	0
PT	(5)	18	(1)	20

（審・川島 森）



1回戦，岡崎城西と日大明誠戦。シュートするのは城西・中村選手

市　川 24〔14－6／10－8〕14 県岐阜商
（千葉）　　　　（岐阜）

〔戦評〕立ち上がり市川の3連続得点により市川の一方的な試合展開になるかと思われたが、県岐阜商もよく守り、パスカットからの速攻で得点する。しかし、市川の高いディフェンスを攻め切れず、前半は14－6と市川リードで終了。
　後半に入り、県岐阜商は田沢の活躍で追い上げるが、市川は速攻、ロングと多彩な攻めで県岐阜商の追撃を許さず、高さとパワーに勝る市川の勝利に終った。（尾崎年英）

得	〔市川〕		〔岐阜商〕	得
0	小林	GK	浅野	0
6	榎	GK	鬼頭	0
5	本間	FP	草川	1
5	坂井	FP	坂井	1
1	佐藤	FP	小牧	0
0	中井	FP	松山	3
0	中野	FP	田沢	7
2	横山	FP	堀	0
0	吉田	FP	岡部	1
0	戸崎	FP	栗本	0
5	有坂	FP	井上	1
		FP	木下	0
24	(0)	PT	(2)	14

（審・森山・高橋）

湯　沢 22〔13－7／9－11〕18 岩国工
（秋田）　　　　（山口）

〔戦評〕高さの岩国工、速さの湯沢の対決となった。前半、岩国の柏木、柏崎が、高い打点からジャンプシュートを打つが、湯沢・井上の好ディフェンスとGK近の堅いキーピングで思うように得点できない。一方湯沢は、多種多様な攻めから着々と得点し、前半で6人が全員得点を決めた。後半に入って湯沢の足が止まり、徐々に点差が縮まっていった。しかし岩国は、相手退場のチャンスを生かし切れず、湯沢が逃げ切った。（高須裕二）

得	〔湯沢〕		〔岩国工〕	得
0	近	GK	柏木浩	0
		GK	松前	0
2	菅	FP	柏木秀	2
3	赤平	FP	柏崎	8
4	八十田	FP	宗田	0
3	井上	FP	山本	4
0	山岸	FP	藤井	2
0	鶴田	FP	藤中	2
7	坂本	FP	山崎	0
0	高山敦	FP	末広	0
3	高山康	FP	小池	0
0	柴田	FP	嶋村	0
22	(1)	PT	(2)	18

（審・秋山・中森）

久留米工大附 32〔12－7／20－7〕14 富　岡
（福岡）　　　　（群馬）

〔戦評〕前半立ち上がりは、両チームとも堅いディフェンスで、お互い得点を許さず、内容の締ったゲームであった。10分過ぎまでは一進一退の展開であったが、単発的なシュートが目立つ富岡に対して久留米工大附は速攻を中心に着実に得点を重ね、15分過ぎから徐々に差を広げ、12－7で前半を終了した。
　後半に入ってからも久留米のスピードは衰えず、中山のロングシュートなどで連続得点をあげるなど一方的な試合となった。（細井和夫）

得	〔久工付〕		〔富岡〕	得
0	條崎	GK	棚橋	0
0	森山	GK	市川	0
5	平野宗	FP	今泉	0
5	中山	FP	安藤	6
3	東島	FP	青田	3
7	杉元	FP	渡辺	1
4	久保田	FP	白石	0
5	後藤	FP	勅使河原	0
2	安永	FP	加部	0
0	福井	FP	佐々木	0
0	井上	FP		
1	平野淳	FP		
32	(1)	PT	(2)	14

（審・後藤・島田）

長崎日大 23〔11－9／12－10〕19 盛岡第一
（長崎）　　　　（岩手）

〔戦評〕パワーに勝る長崎日大と鋭いカットインと速い展開で攻撃する盛岡第一の対戦。立ち上がりは両チームともチームの特色を生かした攻めで得点を重ね、息をもつかさない接戦を展開した。しかし、上からの攻撃のない盛岡に比べ、長崎の森が力強いロングをよく決め、終始リードした。後半15分、長崎の退場の機に盛岡は得点できず、逆に長崎が得点をしリズムに乗った。長崎のカットイン、ポストプレーに対するディフェンスの良さの勝利ともいえる。（若山利彦）

得	〔日大〕		〔盛岡〕	得
0	増見	GK	中井	0
0	牧山	GK	高橋	0
2	松本	FP	北條	1
7	森	FP	阿部	0
0	井手邦	FP	辺見	6
1	井手創	FP	海野	7
0	林田	FP	島	1
5	稲佐	FP	石岡	4
8	濱口	FP	八重樫	0
0	山本	FP	小向	0
0	井上	FP	鈴江	0
0	大津	FP	鈴木	0
23	(2)	PT	(3)	19

（審・旅・田嶋）

横浜商工 29〔12－8／17－8〕16 大　谷
（神奈川）　　　　（京都）

〔戦評〕ディフェンスの差が得点となって表われたといえるだろう。大谷は、横浜商工の手渡しパス攻撃に対して、ボールに厚く守る工夫はしていたが、密着された時にふり切られ、反則が多くなった。ミスの少ない横浜は、田中をはじめとして着々と加点し、試合運びに巧さを見せた。井上のロング、南、中川の速攻で前半は善戦した大谷も、横浜商工の前に屈した。（河合龍二）

得	〔横浜〕		〔大谷〕	得
0	金子	GK	飯田	0
0	鈴木謙	GK	木村	0
2	塩崎	FP	井上	5
5	小松	FP	八木	0
8	田中	FP	前田	1
0	鈴木賢	FP	松下	3
4	小川	FP	石塚	1
0	小林	FP	南	4
0	久保	FP	谷	0
4	荻窪	FP	伊藤	0
6	寺尾	FP	中川	2
0	小山田	FP	小川	0
29	(2)	PT	(1)	16

（審・五味・内記）

小松工 30〔15－8／15－10〕18 高松商
（石川）　　　　（香川）

〔戦評〕小松工の足を使ったスピードのある攻撃に対し、高松商は高尾を中心としたロング主体の攻撃で、前半13分まで両チームとも点の取り合いとなったが、GK池田の好守に助けられた小松工が、高松商のミスから逆速攻で得点を重ね、15－8で小松工ペースのまま前半を終了。

得	〔小松工〕		〔高松商〕	得
1	池田	GK	大橋	0
0	木戸口	GK	岡内	0
1	河原	FP	植田	2
1	川端	FP	村尾	1
13	江渕	FP	高尾	5
4	松見	FP	北川	5
6	中村	FP	東原	1
4	福田	FP	藤野	0
0	中野	FP	藤川	2
0	幸山	FP	赤松	0
0	前田	FP	鎌田	2
0	紺谷	FP	吉田	0
30	(3)	PT	(3)	18

（審・吉田・尾高）

make-up tomorrow

メーク・アップ、トゥモロウ。



財産の運用、ローンのご利用、不動産や年金、相続・贈与の設計など
お客さまとともに明日を創造するBANK、〈ダイワ〉をご活用ください。

あなたと明日を
大和銀行

後半、高松商は速いボール回しにより何とか粘りのある小松工のディフェンスを崩そうとするが、あせりからのミスが目立ち、小松工のペースは乱れるどころかますます調子をあげ、そのまま小松工の圧勝に終った。（玉腰憲樹）

岡崎城西（愛知）22〔12―8、10―11〕19 日大明誠（山梨）

〔戦評〕速いテンポでのパス回しからカットイン、ロングシュートの同じタイプのチームの戦いになった。岡崎城西は、河合のロングシュート、岩口のポストシュートで得点を重ねた。一方日大明誠も強引なカットインプレーで一進一退の攻防となった。城西は、GK春田の好キーピングでリズムをつかみ抜け出した。

後半15分以後明誠は速攻で追い上げたが、城西が3点差で逃げ切った。（高須裕二）

	〔明誠〕	得
GK	柳沢	0
FP	福井	0
	鮎沢	4
	竹林	7
	内山	2
	会田	4
	荒井	1
	川西	0
	鈴木	0
	西野	1
	金子	0
PT	(0)	19

	〔城西〕	得
GK	春田	0
	関	0
FP	岩口	5
	野田	1
	江守	0
	河合	6
	松野	3
	中村	4
	阿部	0
	井方	0
	杉浦	3
	倉本	0
PT	(0)	22

（審・田嶋　旅）

明星（東京）25〔16―9、9―10〕19 熊本市商（熊本）

〔戦評〕前半立ち上がり熊本にミスが目立ち、明星の速い攻撃を許し、9―16で前半を終了した。後半、熊本は上から打たず、ディフェンスが成功し、よく守り、よく攻めたものの、シュート力に勝る明星が25―19で勝利を握った。なかでも明星・布田は、前・後半ともよくシュートを決め、13得点をあげて勝利への原動力となった。（唐沢立夫）

	〔熊本商〕	得
GK	宮本憲	0
	増永	0
FP	樋口	6
	阿萬	0
	中村	1
	改田	2
	浦塘	6
	鶴田	5
	岩本	0
	宮本玲	0
	赤星	0
	門口	0
PT	(1)	20

	〔明星〕	得
GK	神田	0
	守随	0
FP	布田	13
	清水	1
	萩原	9
	酒井	0
	三浦	1
	倉持	1
	種茂	0
	井手	0
PT	(2)	25

（審・清水　岡本）

聖光学院（福島）28〔11―6、17―10〕16 釧路湖陵（北海道北）

〔戦評〕前半、釧路の固さが目立ち、ミスが多く、聖光がボールを回し得点していた。釧路は単発のロングシュートを打つが、あまり決まらず、攻めが単調で、聖光ペースで前半11―6で終えた。後半、立ち上がり5分間も釧路のロングシュートの単発が目立ち、聖光がたて続けに速攻を6本決め、ここでこの試合を決定づけた。その後お互いやや雑になったが、結局28―16で聖光学院が圧勝した。（青木英樹）

	〔釧路〕	得
GK	武田	0
	清水	0
FP	諏訪	3
	安藤	0
	山本	7
	佐藤	3
	手塚	2
	斉藤	0
	下川原	0
	吉村	0
	石川	1
	西村	0
PT	(0)	16

	〔聖光〕	得
GK	野地	0
	田中	0
FP	佐藤賢	2
	斉藤満	4
	加藤誠	1
	金子	7
	佐藤弘	5
	菅野	1
	八巻	0
	加藤利	6
	佐藤和	2
	斉藤英	0
PT	(4)	28

（審・松ヶ谷　夏目）

尾道（広島）22〔9―10、13―10〕20 西宮東（兵庫）

〔戦評〕両チームとも初戦のせいか開始10分間イージーミスの連続で今一つムードに乗りきれない。小さなミスを繰り返す西宮東に対し、尾道は効率よく得点する。しかし、西宮東の高いディフェンスは、徐々に尾道にプレッシャーをかけ、22分には9―9の同点、さらに逆転して10―9と西宮東の1点リードで前半終了。

後半13分、尾道は15―15と追いつく。ここで尾道に退場者が出たが、西宮東の単調なシュートは逆に尾道に速攻を許し、結局この差が最後まで縮まらず、22―20で尾道が勝つ。（上原治一）

	〔西宮東〕	得
GK	窪田	0
	森川	0
FP	広瀬	7
	栗原	3
	野口	7
	藤本	0
	秋吉	3
	永井	0
	村上	0
	川内	0
	黒木	0
	清水	0
PT	(2)	20

	〔尾道〕	得
GK	岡田	0
	西原	0
FP	天野	1
	小崎	9
	松林	0
	宮本	4
	神田	6
	大平	2
	猪爪	0
	桑田	0
	中田	0
	竹国	0
PT	(2)	22

（審・河合　日比）

2回戦

桜台 22〔11―12、11―6〕18 長浜北（滋賀）

〔戦評〕開始早々、長浜がスカイプレーを決め波に乗り、6―3とリード。しかし、17分に桜台は長浜北・中山にマンツーマン・ディフェンスをすると、長浜北にミスが目立ち、結局12―11と長浜の1点リードで前半を終了。後半開始後、桜台GK岩佐の好守をきっかけに4点を連取、15―12と一気に逆転した。しかし、長浜北も追撃を見せ、一進一退を繰り返した。しかし、GK岩佐の好守が目立ち、22―18で桜台が逃げ切った。（松原英司）

	〔長浜北〕	得
GK	長谷川	0
	成田	0
FP	中山	7
	吉川隆	0
	中川勉	3
	田川良	4
	中川	0
	清水	0
	岩田	3
	河村	0
	吉川英	1
	山岡	0
PT	(1)	18

	〔桜台〕	得
GK	岩佐	0
	阪野	0
FP	山田	0
	内田	3
	板谷	8
	鎌田	0
	榎本	3
	落合	0
	草野	0
	山上	0
	鳥本	5
	鈴村	3
PT	(1)	22

（審・中森　秋山）

興南 19〔11―10、8―7〕17 三島

〔戦評〕高さの三島と左右の振りの興南の対決は、ロングの打ち合いで始まった。両チームともよく守り、互いに譲らず一進一退を繰り返した。横の振りのない三島は興南のディフェンスに阻まれ、島平と伊勢坊のロングの多投となるが、興南GK我謝の好守に得点を



今日のヒーローは
背番号6。
ヒーローになる選手は、どこか輝いている。
新発売のコンパクトカラー「6inch Magazine」
も、ファッショナブルでスポーティで、
バツグンのパーソナルタイプ。輝いてるナー。

ハンドボールごころを満たす
Magazine
6inch
6型コンパクトカラーテレビ
CX-60
標準価格79,800円

あげられなかった。興南はいろいろな角度からよく打つが、シュートが粗く、自ら試合を苦しくしていった。しかし、後半20分過ぎ、三島の速攻をGK我謝が止めたことからリズムをつかみ、嶺井がよく決め、2点差で試合を終了した。（若山和彦）

得	〔興南〕		〔三島〕	得
0	我謝	GK	福島	0
		GK	山脇	0
0	宮城	FP	山田	2
3	金城	FP	白井	1
0	石川	FP	有田	1
0	渡慶次	FP	伊勢坊	2
0	具志堅	FP	小坂	2
3	吉浜	FP	島平	9
6	上原	FP	柳瀬	0
2	嶺井	FP	戎脇	0
4	又吉	FP	浅野	0
1	比嘉	FP	山本	0
19	(2)	PT	(4)	17

（審・日比、川合）

市川 17 〔7 10／10 5〕 15 函館有斗

〔戦評〕函館有斗は市川の身長を生かした高いディフェンスに苦戦、スローオフから8分間得点ができなかった。一方市川は、榎、有坂を中心に攻撃を組み立て、榎のロングシュートで先取点をとり、その後もポストシュート、速攻などで確実に得点を重ね、前半を10－5のリードで終った。後半に入り函館有斗は立ち上がり3連続得点しリズムに乗った。GK・佐藤の好守が光り、中盤1点差まで追い上げ場内を湧かせたが、市川は冷静な試合運びで逃げ切った。（梶田芳伸）

得	〔市川〕		〔有斗〕	得
0	小林	GK	佐藤	0
		GK	松	0
6	榎	FP	建部	3
2	本岡	FP	久保	1
3	坂井	FP	高橋	2
2	佐藤	FP	宇美	0
0	中井	FP	伊藤	1
0	中野	FP	古西	0
0	横井	FP	駒野	4
0	吉田	FP	寺嶋	4
0	戸崎	FP	岩崎	0
4	有坂	FP	紅谷	0
17	(2)	PT	(2)	15

（審・森山、高橋）

久留米工大附 33 〔9 14／12 9〕 21 湯沢

〔戦評〕前半20分、9－9の時点から久留米工大附・久保田が速攻をたて続けに決め、以後乱打戦となった。湯沢が速攻、絶妙のサイドシュートを決めれば、久留米も杉本のボール回しから全員が持前のシュート力を発揮、久留米は湯沢の坂本に終始マンツーマン・ディフェンスをかけたのが成功した。

湯沢はよくまとまった好チームであるが、セットオフェンスに一日の長のある久留米工大附には及ばなかった。（河合龍二）

得	〔久工付〕		〔湯沢〕	得
0	條崎	GK	近	0
0	森山	GK		
4	平野宗	FP	菅	4
7	中山	FP	赤平	5
1	東島	FP	八十田	6
3	杉本	FP	井上	2
13	久保	FP	山岸	1
4	後藤	FP	鶴田	0
0	安永	FP	阪本	2
0	福井	FP	高山敦	0
1	井上	FP	高山康	1
0	平野淳	FP	柴田	0
33	(0)	PT	(3)	21

（審・細沢、杉山）

横浜商工 18 〔11 7／9 2〕 11 長崎日大

〔戦評〕前半、両チームとも攻撃にミスが目立ち、特に横浜商工は緩急のあるパスワークが続かず、開始6分まで両チーム無得点であった。横浜はミスの多さからあせりが見え、攻撃が雑になってしまった。防御は互角であったが、長崎日大に攻撃の工夫が欲しかった。後半は、19分まで一進一退の攻防が続き、横浜は速攻を主体に、長崎はポスト、サイドから得点をあげた。

しかし、残り5分、長崎日大に集中力の欠けたプレーが目立った。（木村英資）

得	〔横浜〕		〔長崎〕	得
0	金子	GK	増見	0
0	鈴木謙	GK	牧山	0
2	塩崎	FP	松本	3
3	小松	FP	森	3
4	田中	FP	井手邦	0
0	鈴木賢	FP	井手創	0
4	小川	FP	林田	1
0	小林	FP	稲佐	2
1	荻窪	FP	濱口	2
4	寺尾	FP	山本	0
0	小山田	FP	井上	0
		FP	大津	0
18	(3)	PT	(2)	11

（審・杉本、工藤）

岡崎城西 28 〔12 16／10 10〕 20 小松工

〔戦評〕前半の立ち上がりは、鋭いカットインを主体に攻撃する小松工のペースかと思われたが、5分過ぎに岡崎城西は小松工・中村をマンツーマンでマークする作戦に出る。この作戦が小松工の攻撃のリズムを崩し、岡崎城西は10分過ぎから5連続得点し、ゲームの主導権を握る。リズムに乗った岡崎は20分過ぎからも再び5連続得点し、リードを広げる。後半に入っても、攻撃の要の中村をマンツーマンでマークされている小松工は、思うようにセットで組み立てができず、その間に岡崎城西は速攻で着実に加点、終盤、小松工も速攻で反撃するが、時すでに遅く岡崎城西が8点リードして終了した。（近藤嘉明）

得	〔岡崎〕		〔小松工〕	得
0	春日	GK	池田	0
0	関	GK	木戸口	0
4	岩口	FP	河原	1
5	野田	FP	川端	5
0	江守	FP	江渕	2
5	河合	FP	松見	4
6	松野	FP	中村	6
3	中村	FP	福田	2
0	阿部	FP	中野	0
0	井方	FP	幸山	0
5	杉浦	FP	前田	0
0	倉本	FP	紺谷	0
28	(1)	PT	(1)	20

（審・岡本、清水）

明星 21 〔11 10／11 7〕 18 聖光学院

〔戦評〕バランスのとれたよく似たタイプの対戦となった。序盤戦は、両チームのGKの好守により一進一退の攻防が続いた。しかし前半20分、明星は清水のケガによる欠場で逆に奮起し、速攻、ロングで連続得点をあげ、前半は10－7の明星リードで終了。後半に入っても両チーム相譲らず互角の戦

得	〔明星〕		〔聖光〕	得
0	神田	GK	野地	0
0	守随	GK	田中	0
4	布田	FP	佐藤賢	2
2	清水	FP	斉藤満	5
5	萩原	FP	加藤誠	0
2	酒井	FP	金子	3
6	三浦	FP	佐藤弘	6
0	倉持	FP	菅野	0
0	種茂	FP	八巻	0
2	井手	FP	加藤利	2
0	前田	FP	佐藤和	0
		FP	斉藤英	0
21	(1)	PT	(2)	18

（審・永田、花井）

“まごころのおつきあい”が 私たちのモットーです。



あなたの銀行

北國（ホッコク）銀行

本店
石川県金沢市下堤町
店舗
石川・富山・福井
東京・大阪・名古屋
京都・127か店



3回戦，明星対四日市工。四日市工・久保田選手のシュート

いが続いた。しかし聖光は、前半の点差を縮めることができず、結局21－18で明星の勝利に終った。（尾崎年英）

四日市工（三重）18〔9－6 9－9〕15尾道

〔戦評〕得点が両チームとも入らず、ドタバタとした前半の導入部分となった。お互いに攻撃の型ができ上がる前にシュートミスを繰り返した。10分過ぎからシュートが決まりだしたが、四日市は尾道に比べ得点者、得点方法が多岐にわたり、前半はその差が出た。後半は、両チームとも9点ずつを入れたが、どちらのチームもそれ以上得点をあげられなかったのは、四日市はシュートミス、尾道はパスミス、チャージ、オーバーなどで両者ともチャンスをつぶしたためであろう。（井田浩彰）

〔尾道〕	得
岡田	0
西原	0
王野	1
小崎	10
松林	0
宮本	2
神田	0
大平	1
猪爪	0
桑田	0
中田	0
竹國	1
(4)	15

GK　FP　PT（審・岩永・細井）

〔四日市〕	得
大橋	0
川島	0
奥野	6
酒匂	6
城田	1
大野	0
久保田	1
多湖	4
稲垣	0
藤井	0
高峰	0
石山	0
(0)	18

3回戦

興南33〔18－12 15－12〕24桜台

〔戦評〕興南のパワーとスピードに対し桜台のテクニックがどこまで通じるかが見所であった。前半は興南のパワフルな攻撃が目立ち、各人がまんべんなく得点した。これに対し桜台は、山田のポストプレーを中心に得点したが、18－12と興南のリードで折り返した。後半に入っても興南の攻撃は止まる所を知らず、ロング、ミドル、ポスト、サイドシュート、速攻とどこからでも得点できる強味を発揮し、桜台をねじ伏せた。（津田）

〔桜台〕	得
岩佐	0
阪野	0
山田	6
内田	4
板谷	0
鎌田	2
榎本	3
落合	0
草野	0
山上	0
島本	5
鈴村	0
(0)	24

GK　FP　PT（審・岡本・清水）

〔興南〕	得
我謝	0
宮城	5
金城	4
石川	0
渡慶次	0
具志堅	1
吉浜	0
上原	5
嶺井	7
又吉	5
比嘉	6
(0)	33

久留米工大附22〔9－8 13－7〕15市川

〔戦評〕両チームとも高さとスピードを誇る好ゲーム。ロングシュートの争いかと思われた試合が、互いに得点を許さず、白熱したゲーム展開となる。特に前半、市川は久留米工大附に対し、積極的なディフェンスでロングシュートを簡単には打たせず、逆にタイミングの良いシュートでよく食い下がる。後半に入ると、久留米は市川の有坂にマンツーマン・ディフェンスを仕かけ、市川のリズムを崩し、着実に得点を積み重ねる。これに対し市川は、20分過ぎ粘りを見せるが追いつけず、久留米工大附の勝利で終る。（菅原弘勝）

〔市川〕	得
小林	0
榎	2
本間	2
坂井	1
佐藤	2
中井	0
中野	0
横山	3
吉田	0
戸崎	0
有坂	5
(0)	15

GK　FP　PT（審・高尾・吉田）

〔久工附〕	得
條崎	0
森山	0
平野宗	1
中山	3
東島	0
杉本	4
久保田	2
後藤	7
安永	0
福井	0
井上	4
平野淳	1
(3)	22

横浜商工27〔13－9 14－11〕20岡崎城西

〔戦評〕地元優勝の期待を受けここまで勝ち進んできた岡崎城西は野田、河合の両45度シュートが決まらず、苦しい立ち上がりとなった。これに対し、巧みなパスのつなぎに定評のある横浜商工は、ここ一番というところで田中、寺尾らが確実に得点を積み重ねていった。10分過ぎようやくペースをつ

〔岡崎〕	得
春田	0
関	0
岩口	1
野田	2
江守	0
河合	3
松野	6
中村	3
阿部	0
井方	0
杉浦	5
倉本	0
(0)	20

GK　FP　PT（審・五味・内記）

〔横浜〕	得
金子	0
鈴木謙	0
塩崎	3
小松	4
田中	4
鈴木賢	0
小川	3
小林	0
荻窪	4
寺尾	9
小山田	0
(2)	27

服飾文化の発展とともに

三景グループは、企業の使命感と創造の精神を礎に、
不断の歩みを続けています。



株式会社 三景

代表取締役社長　北　野　喜美夫

本　社　〒101 東京都千代田区岩本町3－4－12 TEL (03)861－7161

かみ出した岡崎城西は何とか追いつこうとするが、序盤の差を縮められぬまま前半を終了した。後半も横浜商工はGK金子の好守によりますます勢いに乗り、着実に岡崎城西を引き離し、ベスト4の切符を手にした。（玉腰憲樹）

明星 25〔12−14／13−6〕20 四日市工

〔戦評〕開始早々警告2回、退場1回をとられ四日市工は苦しい立ち上がりを強いられる。そのすきに乗じ明星・布田が4本続けてシュートを決め有利に試合を運ぶ。11分を過ぎて四日市工は明星・布田にマンツーで守り、明星の攻めのリズムを失ったところを逆に酒匂が4本続けてロングを決め、前半を14−12と四日市のリードで終える。後半、明星は横の早い動きからのカットインを切り、ディフェンスの遅れからペナルティ、ずらしによるサイドシュートで得点を重ねていった。一方、四日市はディフェンスの近い位置でしかも動きのない攻めをし、結局攻め切れないまま試合終了。（勝田正吾）

得	〔明星〕		〔四日市〕	得
0	神田	GK	大橋	0
0	守随	GK	川島	0
11	布田	FP	奥野	5
4	萩原	FP	酒匂	7
2	酒井	FP	城田	1
5	三浦	FP	大野	0
2	倉持	FP	久保田	0
0	種茂	FP	多湖	6
1	井手	FP	稲垣	1
		FP	藤井	0
		FP	高峰	0
		FP	石山	0
25	(3)	PT	(0)	20

（審・松倉 石本）

準決勝

久留米工大附 24〔13−9／11−11〕20 興南

〔戦評〕九州勢同士の戦いとなったこの試合、最初から取っては取り返すといった白熱したスタート。両校ともよく走るスピーディーな展開であったが、次々とくりだされる興南のポストへのパスをよく守って連続速攻につなげた久留米工大附が頭一つ抜け出した。その後興南はGK我謝の好キーピング、又吉のサイドシュートなどで粘り久留米に退場者が出たすきに上原のテクニックあふれるプレーで1点差にまで迫るが、反撃もそこまで。最後は久留米・東島のサイドシュートで万事休した。（根来英介）

得	〔久工附〕		〔興南〕	得
0	條崎	GK	我謝	0
0	森山	GK		
2	平野宗	FP	宮城	2
5	中山	FP	金城	4
3	東島	FP	石川	0
3	杉元	FP	渡慶次	0
6	久保田	FP	具志堅	0
3	後藤	FP	吉浜	0
0	安永	FP	上原	6
0	福井	FP	嶺井	2
2	井上	FP	又吉	5
0	平野淳	FP	比嘉	1
24	(2)	PT	(0)	20

（審・後藤 島田）

横浜商工 15〔7−5／8−5〕10 明星

〔戦評〕GK神田の好守により明星ペースで始まった。

しかし、前半10分あたりから横浜商工は本来の調子を取り戻し、18分には逆転に成功。前半は7−5と横浜のリードで終了した。

後半に入ると、一進一退の激しい攻防が展開され、明星も一時は1点差まで追い上げたが、地力に勝る横浜商工が残り5分で3連続得点し、決勝戦へ進出した。（尾崎英美）

得	〔横浜〕		〔明星〕	得
0	金子	GK	神田	0
0	鈴木謙	GK	守随	0
2	塩崎	FP	布田	3
2	小松	FP	萩原	4
3	田中	FP	酒井	0
0	鈴木賢	FP	三浦	1
6	小川	FP	倉持	0
0	小林	FP	種茂	0
0	久保	FP	井手	2
0	荻窪	FP		
1	寺尾	FP		
1	小山田	FP		
15	(0)	PT	(1)	10

（審・川島 森）



4回目の優勝を飾った久留米工大附属の面々

決勝

久留米工大附 21〔10−9／11−4〕13 横浜商工

〔戦評〕実力校同士の対決となった男子決勝の前半は、久留米工大附が外からのシュート、ポストプレー、速攻と多彩な攻撃を展開、対して横浜商工もポストがらみのコンビプレー、ミドルシュート、速攻と一歩も譲らない。守りでも高さの久留米、動きの横浜と互いに持ち味を生かした25分間となる。久留米の1点リードで折り返した後半は、久留米はディフェンス・ラインをゴールエリア・ラインまで下げ、小さなパスと動きで崩してくる横浜の攻撃の要所をピタリと押さえ、後半を4失点に押さえ、攻めても前半同様着実に加点していった。横浜商工も粘りを見せたが、終盤力尽き、意外な点差をつけられてしまった。

総合力に勝る久留米工大附が、2年連続4回目の優勝を決めた。（近藤嘉明）

得	〔久工附〕		〔横浜〕	得
0	條崎	GK	金子	0
0	森山	GK	鈴木謙	0
1	平野宗	FP	塩崎	2
3	中山	FP	小松	1
3	東島	FP	田中	2
4	杉元	FP	鈴木賢	0
6	久保田	FP	小川	4
1	後藤	FP	小林	0
0	安永	FP	久保	0
0	福井	FP	荻窪	2
3	井上	FP	寺尾	2
0	平野淳	FP	小山田	0
21	(1)	PT	(1)	13

（審・岡本 清水）

女子　昭和学院が初優勝

1回戦

川口青陵（埼玉）24〔12－9 12－3〕12 大分雄城台（大分）

〔戦評〕大分雄城台のスローオフで始まったこのゲーム、川口青陵の堅いディフェンスに苦戦。青陵は立ち上がり、紅林、厚沢がポストシュートを決めゲームの主導権を握った。その後も青陵は速攻、ポストシュートと確実に得点を重ね、差を広げた。しかし20分過ぎ、雄城台は糸園らの活躍で連続5得点し、前半を3点差まで追い上げた。

後半立ち上がり、青陵は連続3得点を取りゲーム運びを楽にした。その後も青陵は速攻、ポストシュートを中心に得点を重ね、一方雄城台も巧みなボール回しで相手ディフェンスを揺さぶるが、今一つ決定打に欠けた。（梶田芳伸）

得	〔青陵〕		〔雄城台〕	得
0	佐藤久	GK	福岡	0
0	半藤	GK	薬師寺	0
2	渡部	FP	中野	2
4	天野	FP	糸園	3
0	宮下	FP	甲斐	0
1	永嶋	FP	梶原	4
1	七木田	FP	菅	0
2	中野	FP	小澤	2
4	佐藤恵	FP	河上	1
6	厚沢	FP	江藤	0
3	紅林	FP	藤塚	0
1	高橋	FP		
24	(3)	PT	(2)	12

（審・岩本　板倉）

夙川学院（兵庫）15〔8－7 7－7〕14 水海道二（茨城）

〔戦評〕古谷の速攻などがたて続けに決まり、水海道二の一方的な試合になるかと思われたが、水海道はロング、ミドルシュートが入らない。そこで細かいプレーに来る所を夙川が速攻につなげ、前半20分に逆転に成功。さらには後半開始早々、退場者が出たスキにリードを広げ、水海道は、ようやく若林のミドルなどで追い上げ、残り2分、1点差とするも消極的な攻撃で自らチャンスをつぶしてしまった。（河合龍二）

得	〔夙川〕		〔水海道〕	得
0	重森	GK	小松崎	0
0	瀧澤	GK	富山	0
6	西村	FP	古谷	4
3	小沼	FP	三輪	2
0	山下	FP	若林	5
0	中村亜	FP	鈴木	0
0	姫田	FP	豊島	1
2	上野朝	FP	染谷	1
4	上野知	FP	石井	1
0	又吉	FP	小野	0
0	中村記	FP		
0	小西	FP		
15	(3)	PT	(2)	14

（審・川島　森）

聖和（宮城）18〔8－6 10－8〕14 上磯（北海道南）

〔戦評〕上磯のスローオフで開始。その後4分間は緊張のためか互いに堅くなり、ミスが多かった。その後は上磯・柴田・聖和・田島を中心とした速攻、サイド攻撃で一進一退を繰り返した。14分過ぎから聖和の早い攻撃が生き、聖和の2点リードで前半を終了。

後半、立ち上がり上磯が2点を連取、一時同点としたが、3分30秒過ぎ、上磯・森が退場してから聖和ペースとなり、速攻などで5点差となった。上磯も頑張り15分過ぎ2点差としたが、20過ぎに再び聖和が引き離して、18－14で勝った。（青山穂高）

得	〔聖和〕		〔上磯〕	得
0	今野	GK	伊藤	0
0	伊藤	GK	中崎	0
3	鈴木	FP	藤本	3
4	菅井	FP	腰本	2
1	遠山	FP	柴田	6
0	大槻	FP	森	1
6	田島	FP	住吉	0
0	芳田	FP	鎌田	1
0	遠藤	FP	竹内	1
0	広野	FP	信田	0
4	片倉	FP	豊川	0
0	加藤	FP	三浦	0
18	(3)	PT	(1)	14

（審・岩永　細井）

粉河（和歌山）24〔15－11 9－4〕15 高松商（香川）

〔戦評〕高松商がロング中心のダブルポストで、ポストにからんでの内からの攻撃に対し、粉河は幅の広い多彩な攻撃を見せ、パスカットからの速攻も早く、前半4点差で折り返した。

後半に入っても粉河のスピードは衰えず、高松商が10分間無得点に対し着実に加点、残り10分で8点差をつけ安全圏に入った。特に後半は粉河のディフェンスが光り、高松商はエースの故障（足首）に泣いた試合であった。（木和田晋弘）

得	〔粉河〕		〔高松〕	得
0	藤平	GK	天野	0
0	中尾	GK		
6	福島	FP	中澤	0
0	蓬合	FP	実川	1
0	高幣	FP	末包	2
3	美馬	FP	細谷	3
7	滝川	FP	小川	0
2	山本	FP	小田	2
5	竹内	FP	牛谷	0
0	川上	FP	藤澤	6
0	児玉	FP	楠	0
1	戸口	FP	多田	1
24	(2)	PT	(3)	15

（審・中森　秋山）

熊本女商（熊本）24〔14－7 10－8〕15 郡山女（福島）

〔戦評〕郡山女も熊本女商も小粒で、よく似たチームであるが、熊本の方が攻撃面でスピード、シュート力に勝り、一枚と二枚も上であった。郡山は柳内に頼りすぎてしまい攻撃にミスが目立ち、得点があげられない。前半、郡山・柳内、熊本・酒井の打ち合いになったが、郡山はパスミスが多く、熊本は相手のミスから得たボールを確実に得点する事ができた。後半は、前半の大差のため郡山は集中力に欠け、ミスが多くなった。一方熊本は、エース・酒井をさげる余裕を見せた。（木村英資）

得	〔熊本〕		〔郡山〕	得
0	平田	GK	鈴木	0
0	黒川	GK	菅野	0
1	久保田	FP	柳内	7
4	松井	FP	影山	0
9	酒井	FP	吉田真	1
6	河野	FP	吉田と	2
2	内田	FP	山城	0
2	栗林	FP	橋本	0
0	塩井	FP	伴野	5
0	野角	FP	青池	0
0	吉丸	FP	渡辺	0
0	橋本	FP	七見	0
24	(4)	PT	(0)	15

（審・岩本　板倉）

昭和学院（千葉）19〔8－7 11－6〕13 緑丘商（愛知）

〔戦評〕荒っぽい大味な試合であった。昭和学院は、座間のPT、熱田の速攻、サイドシュートでリードしてゆくのに対し、緑丘商は堅さのとれた15分過ぎから追い上げ、24分には西の連続3本目のロングシュートで一時7－7の同点とする。

後半14年、12－12。この時点から次第に緑丘商は足が止まり、昭和の体格を生かしたカットインに押しこまれていってしまった。両チームとも上から攻める力をもっていながら、それを生かせなかっ

たのが残念である。（河合龍二）

	〔緑丘〕	得	〔昭和〕	得
GK	高木ユ	0	石田	0
GK	川合	0		
FP	西	4	熱田	6
FP	夏井	2	高橋三	3
FP	中島	3	伊原	0
FP	高木多	1	座間	8
FP	柴田	0	田村	0
FP	山田恵	2	井口	0
FP	小洞	0	高橋優	2
FP	江口	0	阿部	0
FP	山田恵	1	山崎	0
FP	弘中	0	斉藤	0
PT	(2)	13	(4)	19

（審・細沢・杉山）

小松商 15 〔9−7, 6−7〕 14 徳山商
（石川）（山口）

〔戦評〕小松商のスローオフで開始、先取点は徳山商・福成寺のロングシュートであった。その後、徳山商は攻守に堅さが見られ、その間に小松商は速攻、カットイン、PTと得点を重ね、いったんはペースをつかんだように思えたが、再び福成寺のロングシュートが3本決まり好ゲームとなった。後半に入り、小松商のロングシュートを中心に4点連取し、6点差をつけてゲームを決定づけたように見えた。

しかし、得点差の安心感からかミスが多くなり、残り4分で1点差に追いつかれたが、どうにか逃げ切った。（小田龍夫）

	〔徳山〕	得	〔小松〕	得
GK	中嶋	0	東方	0
GK	世良	0	北村	0
FP	北辰	0	宮崎	0
FP	川崎	0	長谷川	0
FP	福田	2	松下	0
FP	小林	2	宮本	0
FP	福成寺	8	坂井	3
FP	山根	1	吉田	0
FP	藤田	0	森	7
FP	曽根	0	石村	3
FP	吉村	0	谷下	2
FP	山本	0	高田	0
PT	(4)	14	(4)	15

（審・杉本・江藤）

佼成学園 24 〔12−9, 12−8〕 17 山陽女
（東京）（広島）

1回戦，川口青陵対大分雄城台。雄城台・梶原のシュート

〔戦評〕優勝候補同士の好カード。立ち上がり、山陽女がロング、速攻、ポストでリードを奪い5−1。しかし、佼成学園女がサイド、速攻で巻き返し、15分には6−8とする。その後、両チームのロングの打ち合いとなったが、山陽女にミスが出て、それが佼成の速攻に結びつき、前半残り5分には逆転した。

後半、佼成女のDFが山陽女のミスを誘い、攻撃が波に乗り、切れのあるシャープな攻撃でポストに頼るしかない山陽女を寄せつけず、終始リードのままタイムアップを迎えた。（木和田晋弘）

	〔山陽〕	得	〔佼成〕	得
GK	柴崎	0	宇井	0
GK	森貞	0	戸塚	0
FP	上田	7	湯野川	3
FP	九十九	0	近藤	1
FP	山本	1	竹吉	14
FP	長久	4	真名子	5
FP	大山	3	三村	0
FP	本田	1	執印	1
FP	玉崎	1	杉山	0
FP	木下	0	村田	0
FP	山田	0	桐谷	0
FP	山中	0	高橋	0
PT	(3)	17	(2)	24

（審・永田・花井）

向陽 15 〔7−10, 8−3〕 13 福井商
（京都）（福井）

〔戦評〕両チームとも決め手がなく、前半から一進一退の攻防を繰り返した。前半は、向陽のオーバーステップなどのミスが出て、3点を福井商がリードした。後半に入り、福井商がペナルティスローを3本連続ではずした。そのため流れが向陽に傾き、新村、盛山らのサイドシュートなどで逆転し、結局15−13で向陽は2回戦へコマを進めた。（津田）

	〔福井〕	得	〔向陽〕	得
GK	小道才	0	西村	0
GK	帰山	0	梅景	0
FP	米沢	2	上田	2
FP	金子	3	新村	2
FP	藤木	0	盛山	4
FP	竹生	2	大槻	1
FP	伊内	1	岸	3
FP	高橋	5	井上	3
FP	牧野	0	藤原	0
FP	小林	0	鳥越	0
FP	篠田	0	長谷	0
FP	長谷川	0	白井	0
PT	(2)	13	(0)	15

（審・高橋・森山）

名短付 28 〔15−7, 13−9〕 16 読谷
（愛知）（沖縄）

〔戦評〕速攻を主にセットでもオールラウンドの攻撃力をもつ名短付、GK徳永の活躍もあり、有利にゲームを進めていった。沖縄のチームらしくフェイントを中心にゆさぶりをかけ、相手のミスにつけ込んだ得点を重ねて反撃を見せる。前半中ば過ぎに読谷ディフェンスの足が止まり、手で守る場面で目につき退場者が出始めると、名短付の一方的な試合展開になっていった。

結局、スピードに勝る名短付が勝利を収めたが、速攻のつなぎな

	〔読谷〕	得	〔名短付〕	得
GK	仲程	0	徳永	0
GK	天久	0	宮川	0
FP	仲宗根	3	日比野	6
FP	伊波	0	岩野	6
FP	冨着	2	寺庄	3
FP	池原	2	岩井田	0
FP	比嘉恵	4	丸山	4
FP	當山	0	国枝	2
FP	大湾	3	陰	4
FP	仲井間	0	八田	3
FP	比嘉寿	2	上島	0
FP	比嘉山	0	近藤	0
PT	(1)	16	(2)	28

（審・岡本・清水）

adidas®

株式会社デサント／デサントトレーディング株式会社

ど今一つであり、2回戦の課題となるであろう。（渡辺貞彦）

松山北 17（愛媛）〔5−8、12−5〕**13 釧路星園**（北海道北）

〔戦評〕釧路星園、松山北とも全員で走り、守る似たチーム同士の対戦。前半は、釧路星園・重野の活躍で8−5と有利に展開。後半に入り、釧路に退場が出た間に松山北が4点を連取し同点とした。その後、釧路は重野を軸に、松山北は全員の走りで一進一退の展開となった。

残り5分から釧路星園の足が止まり始めたところを松山北が走りで突き放した。（加藤照信）

	〔釧路〕	得
GK	生地	0
GK	高瀬	0
FP	渡部	2
FP	七田	1
FP	山田	0
FP	平元夕	1
FP	重野	8
FP	田村	0
FP	平元や	0
FP	松井	0
FP	川口	0
FP	三浦	1
PT	(1)	13

（審・夏目、松ヶ谷）

	〔松山北〕	得
GK	芝	0
GK	横林	0
FP	高田	2
FP	河野	1
FP	河本	1
FP	渡部	6
FP	泉田	2
FP	新国	5
FP	松本	0
FP	荻山	0
FP	藤田	0
FP	和田	0
PT	(2)	17

彦根商 18（滋賀）〔7−7、11−8〕**15 大曲農**（秋田）

〔戦評〕立ち上がり大曲農・小友がフェイントからのシュートで先制した。両チームともにディフェンスが粗く、雑な試合展開となった。しかし、彦根商は相手のミスをつき、着実に得点を重ねた。一方大曲農も多彩な攻撃で得点し、前半7−7で終了した。後半、立ち上がり大曲農が連続得点でペースをつかみかけたが、彦根商もセットプレーが決まり出し、一進一退の試合展開となった。スピード、テクニックで勝る彦根商が18−15で勝利を収めた。（伊藤文彦）

	〔大曲農〕	得
GK	鈴木	0
GK	草彅	0
FP	後藤	3
FP	小松晃	7
FP	今野	2
FP	小友	1
FP	佐藤薫	2
FP	佐藤由	0
FP	斉藤	0
FP	小松秀	0
FP	小松紀	0
FP	長沢	0
PT	(4)	15

（審・羽田、浜田）

	〔彦根商〕	得
GK	川幡	0
GK	圓城	0
FP	森	7
FP	石田	2
FP	木村	3
FP	鋒山	2
FP	藤居	0
FP	矢野	1
FP	山田	3
FP	間柴	0
FP	越智	0
FP	坪田	0
PT	(3)	18

本庄 22（宮崎）〔10−6、12−6〕**12 栃木女**（栃木）

〔戦評〕前半10分過ぎ、1−5と苦しいスタートをした栃木女は、動きの良い本庄のディフェンスをなかなか崩せない。着々と加点する本庄、必死に食い下がる栃木女、前半は10−6と本庄が4点をリード。

後半に入っても本庄の足は止まらず、中盤過ぎからミスの目立つようになった栃木女。本庄は新坂の巧みなパスで栃木女のディフェンスを乱し、着々と得点。最後は、動きの量の差が得点差となったゲームであった。（上原治一）

	〔栃木女〕	得
GK	老沼	0
GK	山下	0
FP	黒崎	0
FP	和気	0
FP	池嶋	0
FP	堤	8
FP	山家	0
FP	岸	0
FP	磯部	0
FP	橋本	0
FP	高森	2
FP	落合	2
PT	(0)	12

（審・日比、川合）

	〔本庄〕	得
GK	坂田	0
GK	巣山	0
FP	新坂	5
FP	金子	6
FP	佐藤	0
FP	東郷	4
FP	日高	6
FP	梅田	1
FP	海老原	0
FP	後藤	0
FP	木下	0
FP	児玉	0
PT	(2)	22

暁 16（三重）〔8−6、8−7〕**13 大阪福島女**（大阪）

〔戦評〕前半は、両チームともにパスミス、キャッチミス、オーバーステップなど初歩的なミスが多く、スピード感のない拙い試合展開で始まったが、やや走り勝った暁が8−6とリードして後半を迎える。

後半になっても、両チームともにオフェンス、ディフェンスにおいて考えたプレーが見られず苦しい展開であったが、結局、基礎体力に勝る暁が16−13で大阪福島女を制した。（勝間正吾）

	〔福島女〕	得
GK	中川	0
GK	松井	0
FP	江崎	1
FP	上野	2
FP	古高	7
FP	角井	1
FP	郡原	0
FP	巻山	0
FP	村上	2
FP	飯	0
FP	奥山	0
FP	当嶋	0
PT	(4)	13

（審・羽田、浜田）

	〔暁〕	得
GK	小林	0
GK	片岡	0
FP	石田	0
FP	柴田	6
FP	三宅	2
FP	内田	0
FP	永峰	0
FP	戸田	6
FP	中根	1
FP	西本	0
FP	小崎	0
FP	上山	1
PT	(3)	16

2回戦

川口青陵 18〔9−6、9−9〕**15 静岡城北**（静岡）

〔戦評〕静岡城北が出足、川口青陵の足がまだ動いていないところをつき、両フローターの切れ味のあるプレーを軸に4−1とリードした。しかしその後、川口青陵が得意のフローターとポストのコンビプレーが合い始め、静岡城北ディフェンスを崩し、得点を重ねて逆転し、前半9−6と川口青陵リードで終了。

後半に入り、静岡城北ディフェンスがよく動き、ロングなどで追いついた。その後、川口青陵・中野、静岡城北・大原を軸にした攻撃で一進一退を繰り返した。残り3分から静岡城北のディフェンスが甘くなったところを川口青陵がカットイン、ポストを3連取して静岡城北を突き放し、勝利を収めた。（加藤照信）

	〔城北〕	得
GK	石垣	0
GK	望月	0
FP	桑原	1
FP	小俣	3
FP	石上	3
FP	島津	2
FP	大原	4
FP	北村	0
FP	野仲	0
FP	森島	0
FP	田代	2
FP	鈴木	0
PT	(2)	15

（審・羽田、浜田）

	〔青陵〕	得
GK	佐藤久	0
GK	半藤	0
FP	渡部	0
FP	天野	1
FP	宮下	0
FP	永嶋	0
FP	七木田	1
FP	中野	3
FP	佐藤恵	5
FP	厚沢	4
FP	紅林	4
FP	高橋	0
PT	(2)	18

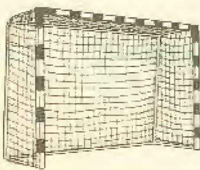
夙川学院 34〔13−6、21−5〕**11 聖和**

〔戦評〕試合開始早々、PT、速攻、カットインと小沼が連続得点、いち早く波に乗ったのは夙川であった。その後も、夙川は上野の確実なサイドシュートを中心に着々と加点。一方聖和は、大切な場面でのシュートミスが目立ち、歯車のかみ合わないまま前半を終了。後半に入って益々勢いを得た夙川

SANWA TAIKU

三和体育製販株式会社

〒332 埼玉県川口市緑町9番15号　☎川口（0482）56-2368㈹



検定合格品

ゴールポスト ●S-3423 ¥180,000 木製
●S-3430 ¥410,000 アルミ製
ゴールネット ●S-3426 ¥32,000 スーパーポリ
●S-3427 ¥25,000 ポリエステル



は、ロングシュートはないもののフローターとのコンビよく、ポストやサイドシュートが次々に決まり、21点をたたき出した。聖和は後半開始5分、キャプテン菅井の負傷欠場による戦力ダウンが響いたが、最後まで粘り強く戦った。（伊藤諭志）

〔聖和〕

	選手	得
GK	今野	0
GK	伊藤	0
FP	鈴木	1
FP	菅井	1
FP	遠藤真	1
FP	大槻	3
FP	田島	2
FP	芳田	0
FP	遠藤康	0
FP	広野	0
FP	片倉	3
FP	加藤	0
	計	11
	PT	(1)

〔夙川〕

	選手	得
GK	重森	0
GK	瀧澤	0
FP	西村	6
FP	小沼	8
FP	山下	0
FP	中村亜	0
FP	姫田	0
FP	上野朝	11
FP	上野知	7
FP	又吉	0
FP	中村記	2
FP	小西	0
	計	34
	PT	(4)

（審・岩本・板倉）

熊本女商 22 〔11―8, 11―9〕 17 粉河

〔戦評〕前半立ち上がりは、両チームとも動きが堅くミスが多かったが、5分過ぎから徐々に持ち味を出し、一進一退のゲーム展開となった。

前半残り5分から熊本女商は酒井、内田のロングシュートなどで連続得点をあげ、11―8でリードした。

後半に入っても、熊本は酒井の切れの良いロングシュートや速攻でじわじわとリードを広げた。それに対して、粉河も10分過ぎから速攻などで反撃し、よく粘ったが、前半終了間際の失点が大きく最後まで響いた。（細井和夫）

〔粉河〕

	選手	得
GK	藤平	0
GK	中尾	0
FP	福島	3
FP	蓬合	0
FP	高幣	0
FP	美馬	0
FP	滝川	5
FP	山本	4
FP	竹内	2
FP	川上	0
FP	児玉	0
FP	戸口	0
	計	17
	PT	(1)

〔熊本女〕

	選手	得
GK	平田	0
GK	黒川	0
FP	久保田	2
FP	松井	4
FP	酒井	7
FP	河野	5
FP	内田	3
FP	栗林	1
FP	塩井	0
FP	野角	0
FP	吉丸	0
FP	橋本	0
	計	22
	PT	(3)

（審・島田・後藤）

昭和学院 15 〔9―6, 6―3〕 9 小松商

〔戦評〕開始早々双方とも堅さが見られたが、昭和学院・座間のロングシュートで勢いのついた昭和が加点していった。特に、小松商のディフェンスに対してキャプテン高橋の確実な右サイドシュートが目立った。一方小松商は、前半8分過ぎに谷下のカットインで得点したが、ペナルティなどのミスが響いた。

後半に入って早々、昭和・高橋が退場となり、小松が波に乗るかと思われたが、速攻が出ず、シュートミスも多かった。昭和は、座間のロングがよく決り、確実に加点していった。（川地政人）

〔小松商〕

	選手	得
GK	東方	0
GK	北村	0
FP	宮崎	0
FP	長谷川	0
FP	松下	0
FP	宮本	1
FP	坂井	0
FP	吉田	0
FP	森	6
FP	石村	0
FP	谷下	2
FP	高田	0
	計	9
	PT	(1)

〔昭和〕

	選手	得
GK	石田	0
FP	熱田	5
FP	高橋三	1
FP	伊原	2
FP	座間	6
FP	田村	0
FP	井口	0
FP	高橋優	1
FP	阿部	0
FP	山崎	0
FP	斉藤	0
	計	15
	PT	(0)

（審・松ヶ谷・夏目）

佼成学園女 24 〔12―6, 12―4〕 10 向陽

〔戦評〕開始6分までにうまくリズムに乗ったかのような向陽が4―2とするが、徐々に速いテンポのパスがつながるようになり、佼成学園が20分には10―6とリード、前半を12―6で終了。後半に入っても、攻撃のリズムに乗り切れない向陽、ローリングからのシュートも単調なためゲットすることができず、後半13分、18―8と10点差となる。フェイントをかけるも足の動きも鈍く、抜き切ることができない。最後まであきらめず頑張る向陽、しかし余裕を見せる佼成の前に、その頑張りも点差をつめるまでに至らず24―10で終わる。（上原治一）

〔向陽〕

	選手	得
GK	西村	0
GK	梅原	0
FP	上田	5
FP	新村	1
FP	盛山	1
FP	大槻	1
FP	岸	2
FP	井上	0
FP	藤原	0
FP	鳥越	0
FP	長谷	0
FP	白井	0
	計	10
	PT	(0)

〔佼成〕

	選手	得
GK	宇井	0
GK	戸塚	0
FP	湯野川	7
FP	近藤	2
FP	竹吉	7
FP	真名子	0
FP	三村	1
FP	執印	5
FP	杉山	0
FP	村田	2
FP	桐谷	0
FP	高橋	0
	計	24
	PT	(4)

（審・五味・内記）

名短付 31 〔17―5, 14―8〕 13 松山商

〔戦評〕名短付の一方的なゲーム展開であった。前半、松山北はセンター中心の攻撃でロングシュートを狙うが、名短付の堅いディフェンスに阻まれ、なかなか得点することができない。一方名短付は、スピードあれる速攻、多彩な攻撃で着実に得点を重ねる。

後半10分過ぎ、松山北は速攻、サイド攻撃で粘りを見せるが、地力に勝る名短付が圧勝した。（菅原弘勝）

〔松山北〕

	選手	得
GK	芝	0
GK	横林	0
FP	高田	5
FP	河野	0
FP	河本	0
FP	渡部	4
FP	泉田	4
FP	新田	0
FP	松本	0
FP	荻山	0
FP	藤田	0
FP	和田	0
	計	13
	PT	(0)

〔名短付〕

	選手	得
GK	徳永	0
GK	宮川	0
FP	日比野	12
FP	岩野	7
FP	寺庄	2
FP	岩井田	0
FP	丸山	0
FP	国枝	1
FP	陰	3
FP	八田	6
FP	上島	0
FP	近藤	0
	計	31
	PT	(1)

（審・旅・田嶋）

本庄 14 〔9―6, 5―5〕 11 彦根商

〔戦評〕前半出だし堅さのとれない本庄のミスをついた彦根商が先行したが、徐々に足が動きだしてきた本庄は、5―1ディフェンスからの速攻、新坂のフェイントからの好配球を受けてのセットで逆転し、ペースをつかんでいった。後半は両者とも雑な展開で、攻めてはチャージ、守っては警告、退場となかなか得点できないまま時

〔彦根〕

	選手	得
GK	川幡	0
GK	圓城	0
FP	森	2
FP	石田	1
FP	木村	3
FP	鋒山	3
FP	藤居	0
FP	矢野	1
FP	山田	1
FP	間柴	0
FP	越智	0
FP	坪田	0
	計	11
	PT	(2)

〔本庄〕

	選手	得
GK	坂田	0
GK	巣山	0
FP	新坂	1
FP	金子	7
FP	佐藤	1
FP	東郷	4
FP	日高	0
FP	梅田	1
FP	海老原	0
FP	後藤	0
FP	木下	0
FP	児玉	0
	計	14
	PT	(3)

（審・川島・森）

各種記念品 バッチ・メタル・優勝カップ・楯 トロフィー・ネクタイ止・金銀製品 製造販売

シマダ記章株式会社

電話 東京(03)973－0741(代) 東京都板橋区中丸町49－3

〒173 FAX. 東京(03)973－0674

間が過ぎ、彦根商は8分からの新坂への必死のマンツーも実らず、タイムアップの笛を聞くことになった。（根来英介）

有　馬（神奈川）18〔5―5 13―7〕12 **暁**

〔戦評〕前半は、暁、有馬ともに激しい当りのディフェンスで相手にあまり得点を与えず、5―5で終了した。後半に入ると、スピードに勝る有馬が、開始1分に新井が、2分には土谷が速攻を決め、その後も多彩な攻撃で着実に得点を重ねた。

一方、暁は得意とする速攻ができなかった。（水谷健一）

得	〔暁〕	
0	小林	GK
0	片岡	GK
0	石田	FP
3	柴田	FP
1	三宅	FP
1	内田	FP
0	永峰	FP
4	戸羽	FP
2	中根	FP
0	西本	FP
0	小崎	FP
1	上山	FP
12	(3)	PT

得	〔有馬〕	
(	大塚	GK
0	座本	GK
3	加古川	FP
2	土谷	FP
2	柳原	FP
5	磯野	FP
0	上島	FP
5	新井	FP
0	大附	FP
1	梅沢	FP
0	池谷	FP
0	城本	FP
18	(1)	PT

（審・吉田　尾高）

3回戦

川口青陵16〔9―6 7―9〕15**夙川学院**

〔戦評〕朝一番のゲームで両者ともに足の動きが悪く、ミスが目立った。川口青陵は、夙川のディフェンスのつめの悪さにつけ込み中野、佐藤のロングシュートなどで着実に攻撃チャンスを得点に結びつけ、9―6で前半を終了した。後半に入りスピードが出てきた夙川は、速攻により得点を重ね、残り1分同点に追いついた。延長戦かと思われたが、川口青陵・佐藤のロングシュートにより劇的な勝利を収めた。（浅井惣）

得	〔夙川〕	
0	重森	GK
0	瀧澤	GK
2	西村	FP
5	小沼	FP
0	山下	FP
0	中村亜	FP
0	姫田	FP
5	上野朝	FP
1	上野知	FP
0	又吉	FP
2	中村記	FP
0	小西	FP
15	(3)	PT

得	〔青陵〕	
0	佐藤久	GK
0	半藤	GK
0	渡辺	FP
3	天野	FP
0	宮下	FP
0	永嶋	FP
3	七木田	FP
1	中野	FP
6	佐藤恵	FP
0	厚沢	FP
3	紅林	FP
0	高橋	FP
16	(0)	PT

（審・永田　花井）

昭和学院20〔7―11 9―5 2―0 2―2〕18**熊本女商**

〔戦評〕まず先手をとったのは熊本女商・酒井のロングシュート。これに対し、昭和学院は座間の一対一を中心としたプレーで反撃するが、熊本のコンビプレーとロングシュートがうまくかみ合い、前半を11―7で終了。後半に入ると昭和の動きが良くなり、追い上げムード。そして、熊本のPTミスをきっかけにゲームの流れが一変し、後半12同点、抜きつ抜かれつの激しいゲーム展開となり、結局今大会初の延長戦へ突入した。

波に乗った昭和の動きは、延長戦になっても冴え、前半のリードを守り、20―18で昭和学院が逆転の勝利を収めた。（中野正彦）

得	〔熊本女〕	
0	平田	GK
0	黒川	GK
0	久保田	FP
2	松井	FP
9	酒井	FP
5	河野	FP
2	内田	FP
0	栗林	FP
0	塩井	FP
0	野角	FP
0	吉丸	FP
0	橋本	FP
18	(1)	PT

得	〔昭和〕	
0	石田	GK
1	熱田	FP
1	高橋三	FP
0	伊原	FP
15	座間	FP
1	田村	FP
0	井口	FP
0	山崎	FP
0	斉藤	FP
2	高橋優	FP
0	阿部	FP
20	(4)	PT

（審・森山　高橋）

俊成学園女21〔10―9 11―10〕19**名短付**

〔戦評〕スピーディな攻撃を主体とする両チームの対戦は、前半から早いゲーム展開で互角のスタートとなった。20分過ぎまでは名短付がやや押し気味で進んだが、俊成学園は名短付に退場者が出たのを機に連続得点をあげ逆転し、1点リードで終了した。後半に入っても両チームとも譲らず一進一退の白熱したゲームとなったが、ややあせりの見える名短付はシュー

得	〔名短付〕	
0	徳永	GK
0	宮川	GK
6	日比野	FP
6	岩野	FP
3	寺庄	FP
0	岩井田	FP
0	丸山	FP
0	国枝	FP
1	陰	FP
1	八田	FP
0	上鳥	FP
0	近藤	FP
19	(5)	PT

得	〔俊成〕	
0	宇田	GK
0	戸塚	GK
2	湯野川	FP
5	近藤	FP
11	竹吉	FP
0	真名子	FP
0	三村	FP
2	執印	FP
0	杉山	FP
0	村田	FP
1	桐谷	FP
0	高橋	FP
21	(4)	PT

（審・杉本　工藤）

くらし、ひろげるジャスコのカード
会員募集中
ファッションから食品まで
サインひとつでお買物。
ご入会手続きも簡単です。
お気軽にお申込みください。
JUSCO CARD
お支払いもいろいろ
●月々のお支払いがラクな
リボルビング払い
●手数料なしのおトクな
一回払い
●お求めはいま、お支払いは
ボーナス一括払い
お申し込み、お問い合せは、ジャスコ各店サービスカウンター又は、販売員におたずねください。
ジャスコ

が甘く、チャンスをものにできなかった。それに対して佼成学園女は、近藤、執印のステップ、ロングシュートが効果的に決まり、名短付を突き放した。（細井和夫）

本庄 14（8—5, 3—6, 1—1, 2—1）13 有馬

（戦評）立ち上がりは両チームともディフェンスがよく、なかなか得点ができない。しかし、有馬はサイド、ポストの攻撃で得点。一方本庄は、キャプテン新坂を軸にスピードあふれる攻撃で得点を重ね、前半は8—5で本庄リードして終了した。後半に入って、両チームとも攻撃の組み立てができず、ロースコアの試合となった。しかし、有馬は相手のミスとサイド攻撃で得点を重ね、同点に追いつき延長戦に持ち込んだ。延長戦は有馬が先制したが、本庄も踏んばりを見せ同点とし、最後は本庄の金子がロングシュートを決め、勝利を手にした。（伊藤文彦）

得	〔有馬〕		〔本庄〕	得
0	大塚	GK	坂田	0
0	座本	GK	巣山	0
2	加古川	FP	新坂	1
1	工谷	FP	金子	8
1	柳原	FP	佐藤	1
2	磯野	FP	東郷	1
0	上島	FP	日高	3
7	新井	FP	梅田	0
0	大附	FP	海老原	0
0	梅沢	FP	後藤	0
0	池谷	FP	木下	0
0	坂本	FP	児玉	0
13	(1)	PT	(5)	14

（審・細沢 杉山）

準決勝

昭和学院 16（7—4, 5—8, 4—0, 0—3）15 川口青陵

（戦評）両チームとも、開始当初から相手のエースにマンツーマンをかけた。川口に先行された昭和は、5分に同点に追いついた後、さらにたたみかけて4—1とリード、波に乗るかに見えたが、ここから川口も2回のパッシブプレーを奪うなど粘り強く反撃し、一進一退の攻防が続く。結局前半は7—4と昭和が3点リード。

後半に入り、川口は昭和ミスをついて着実に加点、20分にはついに同点に追いつき延長に。

延長では、昭和が前半終了間際に川口が2人の退場者を出したのに乗じ着実に得点を重ね、後半、川口の必死の反撃をふり切って1点差で逃げ切った。（小林公徳）

得	〔青陵〕		〔昭和〕	得
0	佐藤久	GK	石田	0
0	半藤	GK	小野	0
0	渡部	FP	熱田	1
2	天野	FP	高橋三	4
0	宮下	FP	伊原	1
0	永嶋	FP	座間	7
2	七木田	FP	田村	3
5	中野	FP	井口	0
1	佐藤恵	FP	高橋優	0
2	厚沢	FP	阿部	0
3	紅林	FP	山崎	0
0	高橋	FP	斉藤	0
15	(1)	PT	(2)	16

（審・細沢 杉山）

本庄 22（13—11, 9—10）21 佼成学園女

（戦評）前半、開始から本庄優位で始まり、10分までに4点差をつけたが、佼成学園女もキャプテン竹吉のパスワークから近藤、執印らのロングで徐々に点差を縮め、前半13—11と本庄リードで折り返した。

後半も前半同様、本庄のスピード豊かな攻撃が続き、着実に得点をあげ、DFでもキャプテン新坂を中心に積極的なつめで佼成の竹吉、執印のシュートを押さえた。終盤反撃したが、力及ばず涙を飲んだ。（岩田安規）

得	〔佼成〕		〔本庄〕	得
0	宇井	GK	坂田	0
0	戸塚	GK	巣山	0
1	湯野川	FP	新坂	3
4	近藤	FP	金子	12
8	竹吉	FP	佐藤	1
2	真名子	FP	東郷	2
1	三村	FP	日高	2
2	執印	FP	梅田	2
0	杉山	FP	海老原	0
0	村田	FP	後藤	0
2	桐谷	FP	木下	0
1	高橋	FP	児玉	0
21	(4)	PT	(5)	22

（審・細井 岩永）

決勝

昭和学院 13（6—2, 7—5）7 本庄

（戦評）開始30秒、決勝の重苦しい緊張した雰囲気を一掃する。昭和・高橋のポストシュート、本庄の攻撃リズムをつくらせないマンツーマンディフェンス、本庄は得点の糸口がつかめない。11分、昭和・座間のロングが左隅に決まり、4—1。本庄GKはしばしばサイドノーマークを止め場内を湧かす。しかし点差をつめることができず、前半6—2で終わる。

後半に入り、本庄は昭和・座間にマンツーマンで、何とかこのペースを変えようとするが、昨日までの鋭い動き、全員ディフェンスが見られない。残り3分になってやっと本庄らしい速いテンポの攻撃が出て場内を湧かせた。このリズムが早く欲しかった。

固い守りの昭和のディフェンスからの攻撃が光った決勝戦であった。（上原治二）



共に初優勝を賭けての昭和学院対本庄の決勝戦

得	〔本庄〕		〔昭和〕	得
0	坂田	GK	石田	0
0	巣山	GK	小野	0
0	新坂	FP	熱田	1
3	金子	FP	高橋三	2
0	佐藤	FP	伊原	3
1	東郷	FP	座間	2
1	日高	FP	田村	3
2	梅田	FP	井口	0
0	海老原	FP	高橋優	2
0	後藤	FP	阿部	0
0	木下	FP	山崎	0
0	児玉	FP	斉藤	0
7	(2)	PT	(0)	13

（審・後藤 島田）

中正杯（チュンチェンカップ）報告

男子は5位、女子は3位

4月13日から17日まで台湾で開催される中正杯（チュンチェンカップ）に参加した日本の男女ジュニアチームは、男子は5位（参加6カ国）、女子は3位（参加5カ国）の成績でした。

今回はアジア諸国ばかりではなく、ヨーロッパからもスウェーデン、オランダ（男子）、デンマーク、西独（女子）といった強豪が参加、大変高いレベルでの大会となり、本年末のジュニア世界選手権大会を目指す日本チームにとって良い経験をしての帰国となりました。

成績

〈男子〉

▼4月13日

スウェーデン 27（12－7 15－8）15 日本

韓国 47（26－4 21－4）8 香港

台湾 22（13－10 9－12）22 オランダ

▼4月14日

台湾 41（22－9 19－4）13 香港

スウェーデン 20（9－7 11－7）14 オランダ

韓国 33（19－14 14－12）26 日本

▼4月15日

オランダ 42（21－6 21－10）16 香港

台湾 32（21－11 11－11）22 日本

スウェーデン 23（11－10 12－13）23 韓国

▼4月16日

オランダ 20（9－11 11－8）19 日本

スウェーデン 58（33－3 25－5）8 香港

韓国 33（16－15 17－14）29 台湾

▼4月17日

日本 31（15－4 16－3）7 香港

韓国 31（16－12 15－14）26 オランダ

スウェーデン 28（12－12 16－10）22 台湾

〔順位〕①スウェーデン②韓国③台湾④オランダ⑤日本⑥香港

〈女子〉

▼4月13日

西独 27（15－11 12－12）23 台湾

韓国 42（21－8 21－10）18 日本

▼4月14日

日本 19（6－8 13－8）16 西独

デンマーク 31（19－11 12－9）20 台湾

▼4月15日

デンマーク 19（10－8 9－10）18 日本

韓国 32（16－10 18－6）16 西独

▼4月16日

韓国 18（9－7 9－11）18 デンマーク

日本 24（12－12 12－11）23 台湾

▼4月17日

韓国 48（25－9 23－10）19 台湾

デンマーク 22（14－10 8－3）13 西独

〔順位〕①韓国②デンマーク③日本④西独⑤台湾

男子監督・早川清孝

昭和62年度男子ジュニアナショナル選手の強化の一環として、中正杯（チュンチェンカップ）に男子ジュニアチームが初めて参加。想像以上のハイレベルに驚かされた。それとともに、アジア地域のハンドボールもさることながら、ヨーロッパ（スウェーデン、オランダ）のハンドボールにも接する機会ができたことは、日本チームにとっての大変有意義な大会となった。しかし、残念なことには、4月上旬というのは年度始めで、社会人（新入社員）の研修があり、大学生は学業登録や春季リーグ戦などでジュニアナショナルチームとしてベストメンバーが組めず、今大会は社会人選手が中心となる人員構成で臨むこととした。

社会人選手16名という当初予定が、参加辞退者や体調不十分者、戦力外者などで、最終的には大会エントリーぎりぎりの13名（1名負傷者）で臨まなければならないアクシデントがあり、戦力的に多少の不安は残ったものの、〝明るく元気に〟をチームのモットーにチャレンジする。

大会参加チームは、男女6カ国（スウェーデン、オランダ、韓国、香港、台湾、日本）、女子5カ国（西ドイツ、デンマーク、韓国、台湾、日本）で、男子それぞれ4月13日～17日（5日間）におけるリーグ戦方式で開催された。

宿舎は桃園市（TAOYUAN HOLIDAY HOTEL）で、大会会場は林口市国立体育学院体育館である為に、選手たちはバス輸送（約30分）の強行スケジュールでコンディションの調整に苦慮したようである。

成績は上記のような結果であるが、各試合とも内容的に見てけして点差程の優劣があるものではなかったし、特にオランダ戦や台湾戦では勝機が十分あったにもかかわらず、みすみすチャンスを失なった感が強く、悔いの残る試合であった。

全体的に見て今後の課題として考えられる点は、試合経過が示す通り各試合ともに前半は接戦の展開にあるものの、試合後半になると疲労からくるものか、思考力の低下や集中力の欠如などによる状況判断の的確さを欠くケースが多々あることは、ゲームスタミナに問題があるものと考えられる。そしてさらに、食生活や環境の変化に伴う精神面での調整能力に劣る選手が少なくなく、経験もさることながら、このような点についても今後十分注意し、トレーニングとともに指導していく必要を痛感致しました。

高木 俊明

◎自分に対しての感想

高校時代は、筋力がなくてもからだにボールが当たればゴールか

ら外れていましたけれど、ジュニアクラスとなるとからだにボールが当たってもゴールインしてしまいます。だから、自分のチームに帰ってすることは体力づくりです。

それと、スウェーデンのGKの試合運びのうまさには驚きました。自分も見習いたいです。

台湾、韓国は、日本のシュートフォームやシュートタイミングとよく似ていますが、ヨーロッパのシュートタイミングは全く異なったものであったことに驚きました。これから先、こういう機会があればまた勉強したいです。

◎チームとしての感想

自分はキーパーだからフィールドの事はよくわかりませんが、一つだけ言っておきたいことがあります。

それはロングシュートを打たれた時どこのコースをつぶせばいいか頭ではわかっているけれども、いざシュートを打たれるとそのあたりのディフェンスがいっせいに手を上げる。たしかにシュートブロックする確率は高いけれども、できなかったらブラインドになって非常に止めにくいです。もっと6対6の練習をして習慣づけにしたらいいと思いました。

それと、海外のチームと試合した経験が少ないのはしかたないけれど、日本でもっと合宿して息を合わして練習試合をしたらいいと思います。

植木 寿憲

◎自分に対しての感想

今回、台湾でのチュンチェンカップには一度しか出ていないのですが、やはり一番感じた事は、何よりもケガがないという事を感じました。やはり、観客席から見ていてとても悔やしい場面が多かったです。

その時いつも感じる事は、もし自分の右足が良ければチームのみんなとコートの中で一緒にプレーができるのになと毎日感じてました。まあ自分は自分なりに試合を見ていたので、外国のプレーなど良く頭に残っているので、日本に帰って練習で1から10までできるようになったら、外人のプレーを思い出しながら練習をやって行きたいと思います。

◎チームに対しての感想

今回、台湾での大会は実業団の

チュンチェンカップ派遣メンバー

〈男子〉

監督	早川清孝	1946. 7.17	京都芸術大学
審判	井上真也	1943. 8.22	東百舌鳥高校

選手		氏名	生年月日	身長	体重	所属
G.K	1	多田恵久	1967. 6.18	185cm	67kg	湧永製薬
	12	高木俊明	1968.12.17	187	73	明石北高校
F.P	2	鹿嶋俊秀	1968.11. 3	188	79	大阪商業高校
	3	坂口俊幸	1966. 6.27	188	76	トヨタ自動車
	4	松尾和明	1967.11.11	187	83	トヨタ自動車
	5	大和田和利	1966. 8.13	180	70	大崎電気工業
	6	大野達哉	1967. 1.14	179	69	大崎電気工業
	7	小池暢男	1967.12.25	185	77	本田技研鈴鹿
	8	松村宏和	1966. 5.12	181	72	本田技研熊本
	9	田中幸介	1967. 7.11	180	72	本田技研熊本
	11	田中英視	1968.11.11	184	72	此花学院高校
	13	植木寿憲	1967. 9.25	183	81	大同特殊鋼
	14	相馬栄司	1967. 2.26	182	75	大崎電気工業

〈女子〉

団長	清水正		日本協会常務理事
監督	藤原侑	1942. 1. 1	日本体育大学
コーチ	梶岡俊介	1948. 2.28	ジャスコ
コーチ	井手和洋	1942. 7.11	熊本女子商業高校
審判	鳥崎政治	1941.10.30	桜塚高校

選手	氏名	生年月日	身長	体重	所属
G.K	梅津直美	1967. 3. 1	169	59	日立栃木
	三浦葉子	1968. 1.13	174	65	ブラザー工業
	村山みどり	1969. 1. 9	176	65	東京女子体育大
F.P	大林恵子	1967. 1. 1	158	54	東京重機工業
	武津優子	1967. 9.19	172	59	立石電機
	中山美和子	1967. 4.12	158	56	立石電機
	小池美由紀	1967.11. 7	164	61	大和銀行
	新田千里	1967. 7. 3	167	68	日本体育大学
	市来未央	1968. 1. 3	159	63	日本体育大学
	白鳥貴子	1967.11.13	168	68	筑波大学
	貞本三奈子	1968.11.17	161	56	大和銀行
	稲田知鶴	1969. 1.20	173	58	ジャスコ
	斉藤八千代	1969. 2.11	170	56	立石電機
	山之内理代	1969. 2.26	176	64	ビクター
	篠原由美	1969. 1.31	158	51	武庫川女子大



日本が生んだ世界のボール
日本ハンドボール協会検定球（J・H・A）
タチカラミムレスボール
タチカラのハンドボールは縫ボールと同じ構造のチューブが離れたL・B・C中空製法です。
TACHIKARA タチカラ株式会社

選手が主体だったのですが、やはり学生とは違い、体力、パワーはある程度あったと思います。しかし、第1戦からスウェーデンとあたりメチャメチャにやられて、チームは落ちこんで行ったと思います。でも、前半悪かったけど後半は良かったというゲームが2～3試合程あったのですが、やはりチームのみんなは苦しい時に我慢できなかったので、自分に負けたのではないかと自分は思います。

大和田和利

◎自分に対しての感想

今回、初めて全日本ジュニアの一員としてチュンチェンカップに参加でき、本当に良かったと思っています。全日本ジュニアの一員であるとともに、自分自身の力をためすチャンスだと思ったからです。しかし、自分で考えているハンドボールがまだまだレベルの低いものであることを、各チームと試合をするたびに感じました。

それは、スピード、パワー、テクニック、あらゆる面で自分自身より優れていると感じたことです。自分の考えているハンドボールをもっと大きく、そしてレベルの高いものにしていかなければならないと感じました。

そのためには、日本に帰ってからの自分自身の練習への取り組み方だと思います。今大会での各チームの長所を自分のものにし、自分の短所をなくすように努力したいと思います。また、各試合において自分の納得のできるプレーができなかったのは、精神的に弱かったからだと思います。そのような面においても、まだまだ勉強しなければならないと思いました。

◎チームとしての感想

今回、チュンチェンカップに出場するため本田技研での合宿、大阪ガスでの直前合宿を行ない、大会に出場したわけですが、自分自身チームワークは良かったと思っています。しかし、大切なところですべての人が「自分がやらねば」という気持ちが先に立ち、空回りしていた部分が多かったと思います。

たとえば、普通ではミスしない場面でパスミス、キャッチミス、シュートミスが出たり、大事なところで声がなくなったりした部分が、自分をはじめほんとうに多かったと思います。

各試合を思い出してみると、勝つことができた試合が2試合程あったと思います。オランダ戦の1点差、韓国、台湾と前半いい試合をしながら後半に入って声が出なくなり、チームの状態が悪く負けてしまう展開になった試合がこの二試合だと思います。

そのような面が今回のチームの欠点のような気がしました。やはり優勝したスウェーデンは、大切なところでチームを盛り上げ、確実なプレーをしていたのではないかと思います。

全日本ジュニア（自分自身）もこのような良い点を見習いがんばっていかなければならないと思います。

松尾　和明

◎自分に対しての感想

今回の海外試合で、多くの自分の不足している面がわかりました。また、自分はこのチームで何をやれば良いのか、もっと自分の役割を考えなければいけなかったのでは、と思いました。自分は試合の中で点数を入れることだけに必死で、チームのつながり、また、相手を生かすプレーがまるでできていませんでした。

自分は、この事を言われるまで自分勝手なプレーをやり、チームに迷惑をかけていました。これからもっとチームの中に自分ということを良く考えたいと思います。

これから日本に帰ってこの遠征で多くの学んだことを生かし、また、自分を磨きたいと思います。

◎チームとしての感想

今回の大会に参加して、海外のチームと試合を行なった時に、日本のチームはまだまだだなという感じがしました。

まずオフェンス面では、ボールまわしがすばらしく、また、体をはってのシュート、試合の組み立てのうまさを感じました。これに比べ日本のプレーはまだまだで、シュートまでいかないうちに自分たちでミスをしてしまい、どんどん落ちこんでいくケースが多く、試合の前半は何とかヨーロッパのチームにでもついて行っているのに、後半にやられてしまう。それも後半の後半、終わる寸前に多くの点数を許してしまうケースが多く、海外のチームに比べたら体力不足なのではと思いました。また、もっと多くの合宿を行ない、チームの強化を行なえば、ヨーロッパのチームにも勝っていたのではないかと思いました。

梅津　直美

4月13日から17日に行なわれた中正杯に参加し、今まで経験しなかった事を経験して、沢山の事を勉強して来ました。

今回の大会には、韓国をはじめとし、西ドイツ、デンマーク、台湾、日本の5チームが参加し熱戦をくり広げました。

私たちは、この中正杯の最大の目的として5月に行なわれる、ジュニア世界選手権予選で対戦する台湾チームとの試合で、是非とも勝ち星を挙げたいという目標をもち出発しました。

しかし、私たちのチームは、昨年のメンバーとのいれかわりがあり、新チームでの遠征となりました。その為、海外遠征、国際試合など初めて経験するという選手もいて、それを短かい合宿の期間でコンビを組み、外人の高さとパワーに対するディフェンスを中心にしたチーム作りをしたのですが、まだとても多くの課題を残したままの状態での出発でした。

今大会の最大の目的であった台湾との試合は、前半から「どうしても負けられない。」という気持ちと、見るよりも実際のプレーにスピードがあり、自分たちのペースがつかめないまま試合がすすみ、後半に入って点差が縮まり、あせりが出はじめ、全員の視野が狭くなり、ミスの連続で相手に得点され苦しい試合となって、残り1分ほどで逆転をし1点差で勝つ事ができました。

全試合を通して感じた事は、個人技が出しきれなかった事、外国人そして勝たなくてはいけないというプレッシャーがかかってしまった事など経験の浅さが出てしまい、自分たちのミスから得点されるケースがとても多く、楽な試合をとても苦しくしてしまったり、あと一歩という試合を落としてしまったりしてしまいました。

この遠征での反省を次ぎの試合

でどこまで直す事ができるか、また、精神的、体力的にも一人一人がもっと強くなる事が私たちのこれからの課題だと思います。
大会を通して、最終日には各国の交流をはかるためのレセプションが行なわれ、とても楽しい時間を取ることができました。
地元の人々とも、言葉が通じなくても身振り手振りで会話をするという貴重な経験もでき、ハンドボールの試合を通して技術以外の勉強もする事ができました。
この経験を大きなステップとして、これからの試合でチームが一つになって頑張っていきたいと思います。

小池美由紀

4試合を通じて感じたことは、もっともっとディフェンスを強化しないといけないということです。日本人は外国勢に比べると小さいということで今回も前へつめるDドをしたんですが、つめるタイミングが悪く、ロングを打たれたり、フェイントで抜かれたり、ポストへパスを通されたりということが何度かありました。ロングやフェイントに対しては、一対一の練習をすればある程度守れるようになると思うんですが、ポストへのパスとなると隣り同士のコンビのことなので、これはお互いがしっかり声をかけ合うことが大切だと思います。ディフェンスにおいては、隣り同士の声を、前後左右のフットワークを身につけることが必要だと思いました。
また、次に、オフェンス面では、ステップシュートと、ジャンプフェイントが通用した事が自分にとっては収穫でした。自分の場合、身長もそれほど高いわけではないので、へたに上から狙うより、ディフェンスの間から狙った方が確実だと思いました。
これとは逆に、これからの課題は、ボールをもらう前の動きと、視野を広げることです。いつもボールをもらってから動こうとするので、もらう前に敵・味方の位置を確認できて動けるよう努力していきたいと思います。
それから、絶対に凡ミスは禁物だと思いました。もうこれは当然わかっていることですが、ぜったい試合など一つのミスが致命傷になりかねないので、ミスは最小限にとどめるべきだと思います。また、ミスによっても次につながるものと、後々尾を引くものとがあると思いますが、後者のようなミスをしてチームの雰囲気が悪くならないようにしたいものです。ミスをしても、それがどんどん続くのではなく、そこでくい止められるようなチーム全体で盛り上げられるようになればいいと思います。
最後に、今回はコンビを組む時間が少なかったせいか、なかなか一つになれず、ミスも多かったたんですが、次にする時は今回よりましになるようにしたいと思います。
初めての海外遠征で学びとったいろいろなことを、これからのことに役立てて、少しずつでも成長できるよう努力していきたいと思っています。

貞本三奈子

今回の遠征前の合宿は、試合が後に控えているということで、緊張した様子がみられた。しかし、最初から人数がそろわないままで始まったので少々不安もあったが、練習は着々と進んでいった。
合宿場所が大和ということで、すごく戸惑った。大和に来て2週間したたっておらず、何も分からなかったかからだ。結局、何もできなかったけれど……。
途中、大体大と武庫川に行った。しかし、その時は、胃痛の為練習ができなかった。自分の健康管理ができてないと思うと、すごく情けなく、みんなが練習や試合などしているのを見ると、悔やしい思いをしたのを覚えているので、これからは、絶対そういうことがないよう心がけたい。
遠征前の合宿で、もう少しコンビの練習ができたらよかったと思う。そうすれば、試合中でも、もっと生かせたと思う。
今回の遠征は、自分自身初めての海外遠征で、正直にいって初めての日本脱出だったので、緊張と不安と期待が入り混じっていたといってもウソではないと思う。
一番の思い出はというと、試合といいたいところだけど、あまり自分の力をだせずに終ったので、これは二番か三番目にしよう。一番目はというと、それは、四日目ぐらいにホテルであったレセプションだ。話を聞いても、何を言っているのかわからないので、初めは楽しくなかったけれど、各国の出し物は、すごい盛り上がりだった。
印象に残ったのは台湾の人たちが、日本の歌（むこうの言葉で）を歌ってくれたことと、ヨーロッパの人たちが、みんなが参加できるようなことをしてくれたことだ。自分たちは、全員で「幸せなら手をたたこう」を振り付きで歌い、1年生だけで、「CHA－CHA－CHA」をおどった。1日前ぐらいから、暇をみつけては練習したのがよかったのか、思わずアンコールがかかったのには驚いた。
今回の遠征で得たものといえば、もう全部。フェイントにしてもパス一つにしても攻守ともであった。ちょっと見方をかえたハンドを見ることができたことがよかった。
次の合宿までには、大和で体力・筋力アップして、自分のプレーができるようがんばりたい。

実績と信頼の公式試合球
イルマボール


ALL OVER THE WORLD
iRUma
ハンドボール

日本ハンドボール協会検定球 HL－3，HL－2
入間川ゴム株式会社
東京・埼玉・大阪・名古屋

香港国際大会報告

日本男子が初優勝を飾る

日程　4月17日～19日
場所　香港ビクトリア公園内ハンドボールコート
参加国　〈男子〉中国、オーストラリア、ネパール、韓国、香港、日本の6カ国。
〈女子〉韓国、中国、香港の3カ国。

〈成績〉
▼4月17日
日本23（13－7 / 10－8）15韓国
▼4月18日
日本38（19－2 / 19－2）4香港
▼4月19日
日本29（16－10 / 13－11）21中国

〔順位〕①日本②中国③韓国
〔女子順位〕①韓国②中国③香港

※はじめこの大会は各国ナショナルチームが参加する予定であったが、実際は韓国は大学単独チーム（ただし韓国ナショナルプレヤー1人）、中国は地区の選抜、香港、ネパール、オーストラリアはナショナルという状況であった。
女子においても、韓国は製薬会社のチーム、中国は北京選抜、香港はナショナルチームであった。

香港国際大会に参加して

監督・野田　清

本大会は、従来ジュニアナショナルチームを中心に開催されていたものであるが、本年度からIHFカレンダーにも載せ、名実共な国際大会にしたいという香港ハンドボール協会の強い要請により、初めてナショナルチームがソウル・オリンピック予選の強化も兼ねて参加することになったものである。

この大会の参加国は、日本、中国、韓国、オーストラリア、ネパール、香港の6カ国であり、ABブロックの予選リーグとブロック別順位決定戦方式により争われることになった。日本は、Bブロックで、韓国、香港と対戦したが、連勝して、Bブロック1位となり、Aブロック1位の中国と優勝をかけて対戦し、29—21で勝ち、本大会初優勝を飾った。

この大会を通じて、1・2・3、0・6ディフェンスを十分活用し守り抜けたこと、選手が勝つためのリズムを学んだこと、ゴールキーパーの矢内選手が最優秀選手に選ばれたことなど、多くの成果をあげることができたので、8月下旬のソウル・オリンピック予選にこの経験を生かして行きたいと思う。

5年間にわたりこの国際大会を運営している香港ハンドボール協会は、限られた予算の中で、宿舎、選手・役員の移動用バスの手配、大会運営、毎日のテレビ・マスコミの活用等、あらゆる面に気を使い、大会がスムーズに運営されるよう気配りし、見事大会を運営している点に本当に頭が下がる思いであり、感謝の意を表し、報告と致します。

香港国際に参加して

西山　清

この香港国際は、当初の予定では中国ナショナルチーム、韓国ナショナルチームが参加することになっていましたが、中国チームも韓国チームもナショナルチームが参加せず、それぞれの国の単独チームが参加し、我々日本チームとしては多少誤算の点がありましたが、中国についても、韓国についてもそれぞれの国らしさを十分もったチームでした。特に中国チームは、高い位置、高い打点からのロングシュート、そしてパスモーションなどからの強引なカットイン攻撃といった長所もさることながら、速攻に対しての戻りの悪さについても、中国チームらしさを十分もったチームであり、対中国戦ソウル・オリンピック予選に向けて大変良い体験だったと思います。

この大会を通じて多くの成果を得ることができました。もちろんこの成果の中には、予選までに、どうしても解決しないといけない多くの課題も多くありました。その1つが、中国チームの大特徴である、高い打点からのシュートや強引なカットインが、この大会の中国チームの得点の中心であった事は、大変大きな課題といえます。特に強引なカットインプレーは中国チームだけでなくクウェートのように体のあるチームと対戦する時の、最も大きな日本チームの欠点といえます。こうした課題のつぶしを行なわないと、DFでムードをつくることが多い日本チームとしては、ソウル予選に勝つ為の重大な事項だと思います。

今後は、こうした課題のつぶしも大切ですが、良い試合をした時のムードも忘れずに、約3ケ月半頑張っていかなければならない。"

オーストラリアについて

立木浩二

香満国際大会には、韓国、中国、香港、ネパール、オーストラリア、日本の6カ国が参加して行なわれた。その中の一つ、オーストラリア。私はハンドボールで、オーストラリアの名を聞くのは初めてであった。毎年、学生選抜で出場するニューカレドニアでの国際大会で、かつて対戦し、10点差ほども開けられ負けたという話を聞いた。どのようなチームか、どんなプレーをするのか、大変興味があるのと同時に、対戦の有無にかかわらず手強そうな気がした。オーストラリアの平均身長は183㎝、平均体重81kg、数字で見ると我々と変わらないのだが、実際見てみると幅もあり、上半身の体格、筋力は秀れている。

監督はユーゴスラビア人で、我々が世話になったスノイ氏が指揮していた頃の選手だったらしい。それだけオーストラリアもハンドボールに力を入れだしているのである。

オフェンス面では、やはり体格、体力パワーを生かしたプレーが多く、ディフェンスの間を割り込んできて得点する。ポストとのちょっとした連携、倒れ込み方など、意外と練習はしてるなぁと目を見張る点もあった。特に№8は、ユ

ーゴからの助っ人か否かは不明だが、2次速攻でも上手く間を割り得点を挙げていた。しかし、全体としての組織だったプレー・コンビも特になく、プレー自体は雑であったように思う。

ディフェンス面では、0：6で、縦への詰めはほとんどなく。韓国の素早いフェイントについて行けてなかった。

今はさほど注意するチームでもないだろう。けれど、ユーゴからの監督・選手の派遣などからみても、今後もより一層強化を計るだろう。我々の苦手とする体格・パワーを持ち備えてるだけに、理論・技・コンビ的な組織プレーを身に付けてくるとなると、今後、我々の強敵となるのは間違いないだろう。

ネパールについて

矢内　浩

ネパールチームについて書くとすれば、速攻型のチームである。ロングシュートを打つ選手がいない（平均身長が170cmぐらいの為）、全員が動いて数少ないチャンスを生かして得点をあげていたと思います。

実力的には、日本の中学生のチームレベルではなかったかと思います。パス、キャッチなどの基本的なものがまだ自分たちのものになってなく、3ゲームを見ても、自分たちのミスから相手に速攻で得点されていた。しかし、レベルは低いが選手一人一人のハンドボールに対する気持が良かったと思います。

今後、ネパールのハンドボールが実力的に向上するとしたら、今回の選手の中で指導する人が、多く出れば、もっと強いチームができて行くと思います。

日本もネパールの良い面を見て自分たちのなくなっているハンドボールに対する純な気持を今後大切にして行きたいと思っています。

香港の印象

山村　敏之

香港への遠征が初めてであった私は、出発前、日本が寒かったのに対し、香港は到着した時25度近くあるのに驚き、その影響で試合中は真夏を思わせ、みんな日焼けして帰国することになりました。

香港の街はゴミなどが散らばっているし、車は多いし、建物は汚いし、あまり美しい国ではありませんでした。それと、街の中にある公共の公園のサッカーコート、ハンドボールコート、バスケットボールコートなどは、コンクリートでできていて、今会の試合会場もコンクリートのコートを使用したので、ふだん体育館の板の上でハンドボールをしている私たちにとって、あまり気の乗らないコートでありました。

金銭の単位はホンコンドルで、1ホンコンドルは約20円で計算でき、500ホンコンドル!!1万円があれば適当なお土産が十分に買うことができ、スポーツシャツなども、なかなか安く手に入れることができました。

短い期間で、色々な事がありましたが、私は香港よりやはり日本が好きです。

男子ナショナル香港大会出場者

団長	川上正幸		
監督	野田　清	1946. 4. 5	大同特殊鋼
コーチ	津川　昭	1951. 8. 3	湧永製薬
コーチ	佐藤要二	1949.10.16	本田技研鈴鹿
コーチ	塙　敏	1950. 8.18	中京女子大学
審判	中本成基	1945.08.19	広高等学校

選手		氏名	生年月日	身長	体重	所属
G.K	1	井藤英忠	1959. 3.10	185cm	83kg	湧永製薬
〃	12	上村幸彦	1959. 2.27	178	78	大同特殊鋼
〃	16	矢内　浩	1960. 8. 1	189	85	大崎電気工業
〃		橋本行弘	1965. 9.17	185	80	本田技研鈴鹿
F.P	2	西山　清	1959. 4. 8	182	78	日新製鋼
〃	4	玉村健次	1961. 1.16	182	77	湧永製薬
〃	5	荷川取義浩	1961.12. 4	185	90	湧永製薬
〃	6	首藤信一	1965. 1.10	186	85	大崎電気工業
〃	7	酒巻清治	1962. 5. 7	180	78	湧永製薬
〃	8	高村誠一	1960.12.11	187	80	大同特殊鋼
〃	9	立木浩二	1960. 4.28	184	76	本田技研鈴鹿
〃	10	田口　隆	1961. 7.23	182	78	本田技研鈴鹿
〃	11	宮下和広	1961. 8.31	187	85	大崎電気工業
〃	13	奥田新治	1959. 6.11	184	72	湧永製薬
〃	15	藤井　泉	1959. 6.26	181	74	日新製鋼
〃	17	山村敏之	1964. 7. 9	177	70	本田技研鈴鹿


創業69年

中村荷役運輸株式会社

代表取締役社長　中村昭光

本社　〒108 東京都港区芝浦2－3－39

電話 東京（03）451－4161(代)

各地の記録から・・・

東海

第68回愛知県実業団リーグ戦

（1月14日～2月21日／名古屋市体育館）

〈1部〉

▼リーグ戦

大同特殊鋼 46―17 日本電装
トヨタ車体 29―16 豊田織機
大同特殊鋼 31―11 新日鉄名古屋
トヨタ自動車 24―23 豊田織機
大同特殊鋼 33―15 トヨタ車体
トヨタ車体 27―17 日本電装
豊田織機 21―17 新日鉄名古屋
トヨタ車体 28―16 新日鉄名古屋
トヨタ自動車 30―16 日本電装
大同特殊鋼 32―15 豊田織機
トヨタ自動車 31―12 新日鉄名古屋
日本電装 33―13 新日鉄名古屋
豊田織機 23―22 日本電装
トヨタ自動車 20―19 トヨタ車体
トヨタ自動車 21―20 大同特殊鋼

〔順位〕①トヨタ自動車②大同特殊鋼③トヨタ車体④豊田織機⑤日本電装⑥新日鉄名古屋

〈2部〉

▼リーグ戦

アイシン精機 25―25 日本硝子
豊田合成 42―6 パイロット
豊田工機 31―15 プラザー工業
プラザー工業 27―11 日本碍子
豊田工機 35―28 アイシン精機
日本碍子 30―25 プラザー工業
豊田合成 25―15 プラザー工業
豊田工機 27―19 パイロット
豊田合成 12―0 アイシン精機
アイシン精機 29―15 パイロット
豊田合成 27―18 豊田工機
日本碍子 32―10 パイロット
アイシン精機 30―28 プラザー工業
豊田工機 28―23 日本碍子

〔順位〕①豊田合成②豊田工機③日本碍子④プラザー工業⑤パイロットインキ⑥アイシン精機

近畿

第29回知事杯京都府選抜選手権

（2月11、22、3月1日／京都府立体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦

京都教員B 30―13 日吉丘高
西宇治高 22―6 シルビアク
八幡ク 21―14 高校ジュニア
東山クB 27―7 舞鶴高専
同志社大 28―14 葵ク
舞鶴海自隊 26―13 城南ク
大谷高校 44―10 田辺町役場
京都教員A 27―10 東宇治高

▼2回戦

京都教員B 28―14 西宇治高
八幡ク 27―17 東山クB
同志社大 12―0 舞鶴海自隊
京都教員A 31―16 大谷高

▼準決勝

京都教員B 24―22 八幡ク
京都教員A 21―13 同志社大

▼決勝

京都教員A 16（10―5、6―5）10 京都教員B

〈女子〉

▼1回戦

京都教大 16―13 京都女高
高校ジュニア 13―8 西宇治高

▼2回戦

古都ク 8―4 京都教大
東宇治高 20―8 高校選抜
向陽高 15―8 京都女高OG
フィーチャーク 32―6 高校ジュニア

▼準決勝

古都ク 14―13 東宇治高
フィーチャーク 25―15 向陽高

▼決勝

フィーチャーク 23（16―5、7―2）7 古都ク

九州

全国高校選抜鹿児島県二次予選

〈男子〉

▼予選リーグ

○Aパート

鹿児島工 42―2 甲陵高
加治木工 36―10 甲陵
鹿児島工 33―14 加治木工

○Bパート

鹿児島中央 25―19 隼人工
隼人工 29―28 国分
鹿児島中央 24―17 国分

○Cパート

大島 37―13 鹿児島商
鹿児島南 26―15 鹿児島商
大島 38―18 鹿児島南

▼決勝リーグ

鹿児島工 25―13 鹿児島中央
大島 27―18 鹿児島中央
鹿児島工 26―15 大島

〔順位〕①鹿児島工②大島③鹿児島中央

〈女子〉

▼予選トーナメント

国分実 20―2 串木野女
鹿児島純心 39―6 串良商
鹿児島南 28―11 鹿児島中央
牧園 不戦勝 不明

▼決勝リーグ

国分実 20―12 牧園
鹿児島純心 13―8 鹿児島南
鹿児島純心 13―9 牧園
国分実 13―8 鹿児島南
鹿児島純心 13―12 国分実
牧園 19―11 鹿児島南

〔順位〕①鹿児島純心②国分実③牧園④鹿児島南

第25回大分県総合選手権

（1月4、5日／大分電波高、鶴崎工高）

〈一般男子〉

▼1回戦

鶴匠ク 16―11 大分商高
ほよよク 35―5 別府青山高
かげろうク 21―10 青山会
大分大 21―13 大龍会
大分雄城台高 32―4 鶴崎工高
大分東高 22―15 49ク
結城会 28―15 鶴嶺会
大分東HBCI 19―14 中津北高

▼2回戦

大電会 23―16 大分大
大分電波高 34―7 鶴匠ク
ほよよク 33―5 ROUク
大分雄城台高 31―17 大分東HBCII
かげろうク 34―7 別府鶴見丘高
大分東高 18―13 大分商高DB
新日鉄大分 28―5 結城会
大分教員 26―22 大分東HBCI

▼3回戦

大分電波高 29―15 ほよよク
大電会 32―17 大分雄城台高
新日鉄大分 26―12 大分東高
かげろうク 22―16 大分教員

▼準決勝

大電会 25―16 新日鉄大分
大分電波高 38―22 かげろうク

▼決勝

大電会 32（18―8、14―10）18 大分電波高

〈一般女子〉

▼1回戦

大分東高 19―12 大分雄城台高
佐賀関高 37―9 雄喜ク

▼準決勝

大分東シニア 19―16 大分東高
関東ク 24―17 佐賀関高

▼決勝

関東ク 21（11―5、10―4）9 大分東シニア

〈中学男子〉

▼決勝リーグ

鶴崎中 37―25 明野中
県立聾 19―15 鶴崎中
県立聾 16―13 明野中

〔順位〕①県立聾学校②鶴崎中③明野中

〈中学女子〉

▼1回戦

大東中A 15―3 鶴崎中B
原川中 23―5 大東中C
鶴崎中A 23―9 大東中B

▼準決勝

大東中A 15―8 原川中
明野中 29―3 鶴崎中A

▼決勝

明野中 18（9―4、9―1）5 大東中A





独自の32面体
ノンスリップ構造で
ダイナミックプレーを演出する
モルテンハンドボール

独特のリブ形状とパネル間段差の"32面体ノンスリップ構造"で確かな手がかりを生み出すとともに、ナイロン糸巻構造をほどこし、すばらしい耐久性、真球性をも実現したモルテンハンドボールは、日本ではじめて国際ハンドボール連盟(I.H.F.)公認を獲得。ハンドボーラーの圧倒的な人気と信頼を集めています。

■日本ハンドボール協会検定球(J.H.A.)

モルテン
ハンドボール

株式会社モルテン

東京・大阪・広島・名古屋・福岡・札幌・ロサンゼルス・デュッセルドルフ

800㎡の青春



ねばり強いディフェンス、そして鋭いシュート! 800㎡のコートにとび散る汗。ハンドボールは、頭脳と技の闘いだ。空間に舞う身体、全身がひとつになりVへのゴールにボールが躍る。ミカサのハンドボールは、優れた弾力性と強度、そして手に吸いつくような感触で全世界のプレーヤーから絶賛を浴びています。勝利を目指す人の、ミカサのハンドボール。



MGH3

新 製 品
小学生用軽量ハンドボール



重量265g
検定球
¥3,300

MIKASA

本　社/〒733 広島市西区横川町3丁目11-2 ☎(082)237-5145(代)
営業所/東京・大阪・名古屋・広島・福岡

東洋証券ハンドボール・ジャパンカップ'87

（網掛け）第6回女子ジュニア世界選手権大会・アジア予選
※印　親善試合

	会場	開始時刻	対戦（男子）	開始時間	対戦（女子）
5/30(土)	国立代々木競技場 第一体育館	18:30	ユーゴ VS 西ドイツ	15:30	全日本 VS ソ連
				17:00	韓国 VS アメリカ
5/31(日)	〃	14:00	全日本 VS ユーゴ	10:40	全日本J VS チャイニーズタイペイJ
				12:20	全日本 VS アメリカ
				15:30	ソ連 VS 韓国
6/1(月)					
6/2(火)	〃	19:30	全日本 VS 西ドイツ	14:50	チャイニーズタイペイJ VS 全日本J
				16:30	ソ連 VS アメリカ
				18:00	全日本 VS 韓国
6/3(水)	横浜文化体育館	19:10	全日本 VS ユーゴ	17:40	※ソ連 VS 日本ビクター
6/4(木)	山梨県営小瀬体育館			18:30	※アメリカ VS シャトレーゼ
6/5(金)	大阪市中央体育館	18:30	西ドイツ VS ユーゴ		
6/6(土)	名古屋市体育館	18:00	全日本 VS 西ドイツ		

参加国

男子
- ユーゴスラビア（ロスオリンピック金）
- 西ドイツ（ロスオリンピック銀）
- 日本（全日本男子）

女子
- ソビエト（'86世界選手権金）
- 韓国（ロスオリンピック銀）
- アメリカ（ロスオリンピック5位）
- 日本（全日本女子）

会場所在地

- 国立代々木競技場 第1体育館　東京都渋谷区神南2－1－1（03-468-1171）
- 横浜文化体育館　横浜市中区不老町2－7（045-641-5741）
- 山梨県営小瀬体育館　甲府市小瀬町840（0552-41-2361）
- 大阪市中央体育館　大阪市東区法円坂町6（06-941-5096）
- 名古屋市体育館　名古屋市熱田区六野2－2－3（052-872-6655）

New & Next
brother



昨日見た夢、残しておきたいね。
昨日見たのはハッキリと覚えてる。ハートがポカポカとあったかくなるような夢だった。それをソーイングして布に残した。とてもかわいく仕上がった、布絵本。
創イングMY STORY。


COMPAL-αII

ブラザー工業株式会社



高度なスカイプレーが変幻自在。

スカイハンド®スペシャル（THH705）

- ●カラー　ホワイト×レッド・レッド×ホワイト・ロイヤルブルー×ホワイト
- ●サイズ　22.5～28.0cm
- ●アッパー　ステア表革（ホワイト×レッド）
  牛革ベロア（レッド×ホワイト、ロイヤルブルー×ホワイト）

標準小売価格 ¥13,000

ASICS TIGER

襲う。

ストップ＆ジャンプ性能を徹底追求したシューズ〈スカイハンド®スペシャル〉。つま先からかかとまで衝撃吸収性に富む超軽量スポンジE・V・A・を内蔵したカップソールが、素晴しい軽さ、ソフトな着地感、ストップ性を獲得しました。アクロバチックなスカイプレイを繰り広げながら、ヒッチコックの「鳥」のような圧倒的迫力でゴールを襲うハンドボーラーに捧げます。

株式会社アシックス

（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二六二号
昭和四十年六月
第三種郵便物認可
昭和六十二年四月二十五日 印刷
昭和六十二年五月一日 発行
東京都渋谷…一―一―一
電話 代表（…）二三六一
振替 東京 六―五八三四八番
編集兼発行人 大野金一
定価三百五十円
（年間購読料三千三百円）

スポーツが好き。汗が好き。

笑顔があります。涙があります。
躍動があります。記録への挑戦があります。
チームプレイの和があります。
からだを動かしていると
人生の大切なものがたくさん見えてきます。
新日鉄は、スポーツを通し
心身を鍛える皆様に声援をおくります。

新日本製鐵

